

第3章 オノマトペの使用の実態

第3章では、オノマトペの使用の実態を把握するため、各種言語資料と中級および初級の日本語教科書に、どのようなオノマトペがどのくらい出現しているかを調査し、報告する。

序章でも述べた通り、日常の言語生活の様々な場面において多用されているオノマトペが、従来の日本語教育においてその重要性に見合う扱いを受けてきたとは考えにくい。本章での調査とそれに基づく考察を通して、日常の言語生活において、オノマトペが実際どのように使われているか、また日本語の教科書のどの段階においてどのようなオノマトペが取り扱われているかを知ることで、オノマトペ教育の方策への手掛かりが得られるのではないかと考える。

始めに、3.1節では、新聞記事、雑誌記事、シナリオ集、漫画という各種言語資料に現れるオノマトペにどのようなものがあるか、また高頻度で用いられる語は何か等、調査と報告を行う。次に、3.2節では、市販されている中級教科書10種13冊にどのようなオノマトペがいくつぐらい見られるか、またそれらはどのように提示されているのかということを調査し考察する。続く3.3節では、初級教科書14種21冊について同様の調査と考察を行う。

3. 1 各種言語資料に見られるオノマトペ

ここでは、新聞や雑誌、シナリオ集、漫画など、一般の言語資料にどのようなオノマトペが見られるか、またその中で多く使われているのはどのようなオノマトペかを調査する。この調査とそれに基づく考察によって、日常の言語生活におけるオノマトペ使用の一面を知ることができる。と考える。

まず、3. 1. 1項では、NTTが朝日新聞 14年分の記事を基に作成したデータベースからオノマトペを抽出し、それを頻度順に並べ替えたデータを見る。次に、3. 1. 2項では、国立国語研究所による『現代雑誌の語彙調査—1994年発行70誌—』を資料として、新聞記事と同様にオノマトペの出現状況を調査する。続く3. 1. 3項では、テレビドラマと映画のシナリオ集のデータを資料とする。3. 1. 4項では、漫画『ドラえもん』に出現するオノマトペのデータをインターネット上に公開している富山大学のサイトを資料とする。そして、最後に3. 1. 5項で全体のまとめと考察を行う。

3. 1. 1 新聞記事に見られるオノマトペ

一般の言語資料として最初に取り上げるのは、NTTで作成された『朝日新聞』（1985年～1998年）の記事全文のデータベース（天野・近藤，2000）である。このデータベースには、「文字の特性」「漢字の読み」「単語表記」「単語アクセント」「単語の親密度」「単語の頻度」など、合計10のデータが含まれている。ここで、資料としたのはこのうちの「単語の頻度」である。

調査の方法は、まず、すべてのデータから「副詞」を検索することによって、約4,000語の副詞を抽出した。そこから、オノマトペではないものを削除していき、オノマトペだけの出現数頻度データを得た。さらに、オノマトペの表記には、ひらがなもカタカナも使われているため、それら両方の表記において出現した数を足した。また、オノマトペは用法として、スル動詞、また形容動詞、名詞の用法も持つので、副詞として抽出したオノマトペがそれらの用法を持つ場合には、その出現数も足した。このような手順を経て、最終的にその語の合計使用頻度数を出し、再度出現頻度順に並べ替えたものが、【表1】である。

【表1】「新聞記事に見られるオノマトペ」(1)

	順位	語	出現数
1	1	はっきり	25238
2	2	きちんと	10004
3	3	しっかり	9641
4	4	どンドン	6521
5	5	ゆっくり	5539
6	6	すっきり	5000
7	7	びっくり	3473
8	8	じっくり	3389
9	9	ざっと	3057
10	10	ぎりぎり	2970
11	11	じっと	2910
12	12	ふと	2485
13	13	そろそろ	2255
14	14	あっさり	2033
15	15	ホッと	2013
16	16	すっきり	1875
17	17	ちゃんと	1857
18	18	そっくり	1822
19	19	いらいら	1810
20	20	ゆったり	1588
21	21	のんびり	1579
22	22	すんなり	1473
23	23	そっと	1404
24	24	ざっと	1375
25		ずらり	1375
26	26	くっきり	1305
27	27	ちょっぴり	1244
28	28	ぐっと	1223
29	29	がっかり	1123
30	30	どっと	1097
31	31	きっぱり	1072
32	32	しみじみ	1067
33	33	きちっと	1024
34	34	たっぷり	1006
35	35	じわじわ	1005
36	36	きっちり	1002
37	37	さっぱり	966
38	38	のびのび	954
39	39	うんざり	914
40	40	パッと	891
41	41	コツコツ	888
42	42	びったり	880
43	43	びっしり	876
44	44	ひっそり	863
45	45	ぐんと	852
46	46	こっそり	851
47	47	じりじり	810
48	48	ニコニコ	800
49	49	ずばり	780
50	50	ずるずる	768
51	51	ピタリ	767
52	52	ぎっしり	704
53	53	すっぽり	668
54	54	ポツリ	662
55	55	めっきり	630
56	56	ハッと	627

	順位	語	出現数
57	57	ふらふら	614
58	58	うっかり	611
59	59	せつせと	595
60	60	にっこり	587
61	61	どきどき	561
62	62	とん	555
63	63	がらり	545
64	64	しゅん	518
65	65	ぼんやり	494
66	66	はらはら	485
67	67	がちり	471
68		ぐったり	471
69	69	ニヤリ	459
70	70	ゾッと	439
71	71	ポツン	436
72	72	さっさと	435
73	73	ふっと	432
74	74	さらり	424
75	75	ぐんぐん	417
76	76	すっと	413
77	77	めちゃくちゃ	410
78	78	バタバタ	390
79	79	びかびか	389
80	80	カッと	384
81	81	くるくる	378
82	82	ぐるぐる	372
83	83	うっすら	365
84	84	バラバラ	364
85	85	ゴロゴロ	363
86	86	ビリビリ	359
87	87	ちらり	355
88	88	わくわく	344
89	89	ひしひし	341
90	90	ブラブラ	335
91	91	キラキラ	320
92	92	のっと	320
93	93	どっぷり	313
94	94	ふっくら	291
95	95	やんわり	288
96	96	がらん	285
97	97	ウロウロ	276
98	98	やきもきする	268
99	99	まざまざ	259
100	100	がっくり	240
101	101	ポーッと	239
102	102	ぼっそり	236
103	103	どっしり	233
104	104	ぺらぺら	230
105	105	ノロノロ	228
106	106	ぼったり	227
107	107	からから	221
108	108	ぐいぐい	218
109	109	ぐるり	216
110		みっちり	216
111	111	ポンポン	214
112	112	ぼっかり	213

【表1】「新聞記事に見られるオノマトペ」(2)

	順位	語	出現数
113	112	ワイワイ	213
114	114	ごっそり	209
115		しんなりする	209
116	116	しっとり	203
117	117	トントン	202
118	118	ブツブツ	201
119	119	おっとり	196
120	120	モヤモヤ	196
121	121	じわり	193
122	122	むっとする	193
123	123	ドロドロ	191
124	124	ドキッと	190
125	125	だらだら	188
126	126	ポロポロ	181
127	127	しっくり	177
128		ちらほら	177
129		バリバリ	177
130	130	ひやり	176
131	131	どっさり	175
132	132	ぐっすり	171
133	133	よちよち	170
134	134	ビクビク	169
135	135	グズグズ	167
136		ふわっと	167
137	137	クタクタ	166
138		ぞろぞろ	166
139		ひんやり	166
140	140	べったり	166
141	141	てきぱき	162
142	142	ピリッと	161
143	143	ツルツル	160
144	144	コロコロ	158
145	145	ずっしり	158
146	146	はた	157
147	147	しんみり	156
148	148	どんと	154
149	149	ウツトリ	152
150	150	スイスイ	152
151	151	とろり	151
152	152	グラグラ	149
153	153	ずしり	145
154	154	ベタベタ	144
155	155	ひよっこり	143
156	156	ふらり	141
157	157	スカッと	137
158		パチパチ	137
159	159	さらさら	136
160		ポツリポツリ	136
161	161	スーッと	135
162		ぴんと	135
163	163	キョトン	134
164		サバサバ	134
165		びっしょり	134
166	166	ニンマリ	132
167	167	ごちゃごちゃ	131
168	168	からり	130

	順位	語	出現数
169	169	ニヤニヤ	129
170	170	びしゃり	127
171	171	ずたずた	125
172	172	キラリ	124
173	173	ほんのり	123
174	174	すらすら	120
175		そそくさ	120
176		ニコリ	120
177	177	うかうか	119
178		こんがり	119
179	179	がっぷり	116
180		ふんわり	116
181	181	ひよいと	110
182	182	ガタガタ	107
183		ぞくぞく	107
184		ちらっと	107
185	185	きゅうきゅう	106
186	186	どんより	103
187	187	すくすく	101
188		ゆらゆら	101
189	189	バッチリ	99
190		ひやひや	99
191	191	カンカン	97
192		くるり	97
193	193	ふわふわ	96
194	194	バンバン	95
195	195	うかと	94
196		ちょこんと	94
197	197	ホクホク	93
198		ぼちぼち	93
199	199	ぐるっと	92
200		ひたひた	92
201	201	すらり	89
202	202	きっかり	87
203		てっきり	87
204		めきめき	87
205	205	ぎゅっと	86
206		ワッと	86
207	207	いそいそ	84
208		こんもり	84
209		しんと	84
210		スパッと	84
211		そろり	84
212	212	ぬくぬく	80
213		ふわり	80
214	214	ポロポロ	79
215	215	ガンガン	77
216	216	こわごわ	76
217		しかと	76
218	218	しょんぼり	74
219	219	ぶらり	73
220	220	おずおず	72
221		ちょいと	72
222	222	ちよくちよく	70
223	223	たじたじ	69
224	224	がらっと	68

【表1】「新聞記事に見られるオノマトペ」(3)

	順位	語	出現数
225	224	ちらちら	68
226		のらりくらり	68
227		ひらひら	68
228	228	ぼそぼそ	67
229	229	するする	66
230		ドスン	66
231		ポトリ	66
232	232	すっぱり	65
233		ポロリ	65
234	234	するり	60
235		ぼつぼつ	60
236	236	ゴツゴツ	58
237		コトコト	58
238	238	ずらっと	57
239		べったり	57
240		ぼつぼつ	57
241	241	こそこそ	56
242	242	ガラガラ	55
243		ふらっと	55
244	244	ゴシゴシ	54
245		すくと	54
246		チクリと	54
247	247	くねくね	53
248	248	うきうき	51
249		きりり	51
250		こんこん	51
251	251	どきり	50
252	252	ひよっと	49
253		ふつふつ	49
254		もくもく	49
255	255	キリキリ	48
256		ぷっつり	48
257	257	ちゃっかり	47
258	258	あたふた	46
259		とっぶり	46
260		ポイト	46
261	261	ぐいと	45
262		ちょこちょこ	45
263		ブルブル	45
264	264	ひそひそ	44
265	265	おいおい	43
266		おちおち	43
267		じんわり	43
268		どっかり	43
269		ぼんと	43
270	270	カラッと	42
271		のったり	42
272		ぴたっと	42
273		よろよろ	42
274	274	とぼとぼ	41
275		パクパク	41
276		ビシビシ	41
277		ペンペン	41
278		ほっそり	41
279	279	がくん	40
280		ギクリ	40

	順位	語	出現数
281	279	きゅっと	40
282		ずけずけ	40
283		びゅう	40
284		ピョンピョン	40
285	285	ゲラゲラ	39
286		じわっと	39
287		むっつり	39
288	288	きらり	38
289		きらっと	38
290		とっくり	38
291		ふうふう	38
292		ぼんぼん	38
293		まんじり	38
294		バンバン	38
295	295	じゃんじゃん	37
296		ぶるぶる	37
297		ほろり	37
298		ぼん	37
299		カタカタ	37
300		ガタン	37
301		パチン	37
302		メキメキ	37

新聞記事は書き言葉が中心であるということもあり、オノマトペの中でもいわゆる通常の副詞として用いられ、汎用性も高いと思われる語「はっきり」「きちんと」「しっかり」「どンドン」「ゆっくり」が上位5位を占めた。特に「はっきり」の使用頻度数は2万5千回と2位の「きちんと」を2.5倍と引き離している。【表1】には載せていないが、「はっきり」は動詞の使用としては約15,700回、副詞としては約9,500回であるから、「はっきりする」という動詞として用いられることのほうが多いということがわかった。出現回数7位の「びっくり」も同様である。また、上位50語のオノマトペとしての種類を見てみると、金田一(1978)の分類でいう「擬情語」の類が少なからず含まれていることがわかる。それらは、「びっくり」「ほっと」「いらいら」「のんびり」「がっかり」「のびのび」「うんざり」「じりじり」である。上位100語までにもさらに15語が含まれている。これらはほとんどすべて「する」を伴って動詞として用いられ、話し手の心情を表すオノマトペである。オノマトペの中でもやはりこのような語は、日常の言語生活において必須の語であることがこのデータからも推測できる。一方、いわゆる擬音語の類は、新聞記事における出現頻度が非常に低いということがわかった。¹

ここでは、それぞれのオノマトペの出現総数とその頻度順に着目して調査したが、今後は各語がどのような品詞として用いられることが多いのかという、オノマトペの統語的側面にも注目して分析・考察をしていきたいと考える。

3. 1. 2 雑誌記事に見られるオノマトペ

資料としたのは、国立国語研究所が研究課題とした「現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパス」における「現代雑誌200万字言語調査」の語彙調査である。²国立国語研究所では、1956年に雑誌90種を対象として調査を行っているが、今回はそのほぼ2倍にあたる200万字分の本文を調査対象としている。出現したオノマトペのうち、度数2度以上、すなわち2回以上出現したものを頻度順に並べたのが【表2】である。

¹ 出現頻度順4位の「どンドン」は、データを表記別に見ると「ドンドン」という表記で112回出現している。この場合は擬音語としての用法であると考えられるが、「どンドン」の出現総数6521回の1.7%にしかすぎない。

² このコーパスは、以下に記す国立国語研究所のホームページで公開されている。

<http://www2.kokken.go.jp/goityosa/index.html>

【表2】 「雑誌記事に見られるオノマトペ」(1)

	順位	語	度数
1	1	たっぷり	92
2	2	はつきり	73
3	3	すつきり	68
4	4	ぴったり	66
5	5	きちんと	63
6	6	どンドン	61
7	7	ゆっくり	59
8	8	びっくり	52
9	9	すっきり	46
10	10	ちゃんと	45
11	11	ずばり	38
12	12	ゆったり	37
13	13	じっくり	28
14		しっとり	28
15	15	のんびり	27
16	16	そろそろ	24
17		ふと	24
18	18	さっぱり	22
19		ほっと	22
20	20	ぐんと	21
21	21	じっと	20
22		すっと	20
23	23	そっくり	19
24	24	あっさり	18
25		ぐっと	18
26	26	ふっくら	17
27	27	いらいら	16
28		そっと	16
29		どきどき	16
30	30	ぽっと	15
31	31	ぼんやり	14
32	32	うっかり	13
33		きらきら	13
34		さらっと	13
35		さらりと	13
36		ちよっぴり	13
37		わくわく	13
38	38	くつきり	12
39		ふわっと	12
40	40	きっちり	11
41		くるくる	11
42		ちらり	11
43	43	さらさら	10
44		ぴかぴか	10
45		ひっそり	10
46		ぽんと	10
47	47	がっちり	9
48		ぼっちり	9
49		ぼりぼり	9
50	50	がっかり	8
51		ぎゅっと	8

	順位	語	度数
52	50	ぎりぎり	8
53		さっさと	8
54		すんなり	8
55		どっと	8
56		にやにや	8
57		ばらばら	8
58		ふっと	8
59		ふらふら	8
60	60	がんがん	7
61		しっくり	7
62		じわじわ	7
63		ずるずる	7
64		どしどし	7
65		にこにこ	7
66		びっしり	7
67		ふんわり	7
68		ぼつり	7
69	69	うきうき	6
70		うろうろ	6
71		ぎっしり	6
72		きりっと	6
73		ぐっすり	6
74		ぐるぐる	6
75		こっそり	6
76		こんがり	6
77		しいん	6
78		すべすべ	6
79		ずらり	6
80		だらだら	6
81		はっと	6
82		びりっと	6
83		ほんのり	6
84		むっと	6
85	85	うっとり	5
86		がらがら	5
87		ぐんぐん	5
88		しんなり	5
89		つるつる	5
90		のびのび	5
91		はらはら	5
92		びたっと	5
93		ぽかぽか	5
94		ぼろぼろ	5
95	95	うっすら	4
96		おっとり	4
97		がっしり	4
98		がらり	4
99		ぎざぎざ	4
100		きっぱり	4
101		きゅっと	4
102		きりりと	4

【表2】 「雑誌記事に見られるオノマトペ」(2)

	順位	語	度数	
103	95	ごちゃごちゃ	4	
104		ごっごっ	4	
105		ごぼ	4	
106		ころころ	4	
107		ごろごろ	4	
108		こんもり	4	
109		さくっと	4	
110		ざっくり	4	
111		しゃきっと	4	
112		しゅっと	4	
113		すっぼり	4	
114		すらすら	4	
115		するする	4	
116		するり	4	
117		つやつや	4	
118		どたばた	4	
119		どっしり	4	
120		とろん	4	
121		どんと	4	
122		とんとん	4	
123		にっこり	4	
124		ばさばさ	4	
125		ばたばた	4	
126		ひたひた	4	
127		ぴんと	4	
128		ひんやり	4	
129		ふわふわ	4	
130		ぼうっと	4	
131		ぼんぼん	4	
132		めちやくちや	4	
133		揺ら揺ら	4	
134		よちよち	4	
135		135	うんざり	3
136			がーん	3
137	かさかさ		3	
138	かっと		3	
139	からっと		3	
140	きちっと		3	
141	きびきび		3	
142	ぐいっ		3	
143	ぐずぐず		3	
144	くたくた		3	
145	くねくね		3	
146	ごおーっ		3	
147	ごっ		3	
148	しょんぼり		3	
149	じりじり		3	
150	すいすい		3	
151	すくすく		3	
152	ずっしり		3	
153	せっせと		3	

	順位	語	度数
154	135	ちっ	3
155		チャ	3
156		ちらほら	3
157		ちんどん	3
158		てきばき	3
159		ドカン	3
160		どぼどぼ	3
161		ねちねち	3
162		ねっとり	3
163		パチ	3
164		ぼっ	3
165		ぼっちり	3
166		ぼん	3
167		びしゃり	3
168		冷や冷や	3
169		ぶくぶく	3
170		ぶつぶつ	3
171		ぶらり	3
172		ふわり	3
173		ぺこぺこ	3
174		べったり	3
175	ぼさぼさ	3	
176	ぼっきり	3	
177	ほっそり	3	
178	ぼつん	3	
179	まざまざ	3	
180	まちまち	3	
181	みっちり	3	
182	モコモコ	3	
183	やすやす	3	
184	わいわい	3	
185	185	いそいそ	2
186		おろおろ	2
187		カクン	2
188		がさがさ	2
189		がたがた	2
190		がたん	2
191		かちかち	2
192		からころ	2
193		かりかり	2
194		がりがり	2
195		キーッ	2
196		ぎくしゃく	2
197		きちっと	2
198		きっかり	2
199		きつと	2
200		ぎやあぎやあ	2
201		ぎらぎら	2
202		ぐうたら	2
203		くしゃくしゃ	2
204	ぐちゃぐちゃ	2	

【表2】雑誌記事に見られるオノマトペ（3）

	順位	語	度数
205	185	ぐったり	2
206		くらくら	2
207		くるりと	2
208		こってり	2
209		こりこり	2
210		ころっと	2
211		ころんと	2
212		ごわごわ	2
213		ざわざわ	2
214		すこん	2
215		すとんと	2
216		すらり	2
217		ぜえぜえ	2
218		せかせか	2
219		ぞっと	2
220		だらりと	2
221		ちゃぶちゃぶ	2
222		ちよい	2
223		つるりと	2
224		つんと	2
225		ドキッ	2
226		どきり	2
227		どたっ	2
228		どっぶり	2
229		どどっと	2
230		とろり	2
231		にこっと	2
232		にたにた	2
233		ぬるぬる	2
234		のっぺり	2
235	ぱくりと	2	
236	ぱったり	2	
237	パラッと	2	
238	ぱらぱら	2	
239	ぱりっと	2	
240	はりはり	2	
241	ぱりぱり	2	
242	びしびし	2	
243	びちびち	2	
244	ひよっと	2	
245	ひりひり	2	
246	びりびり	2	
247	ふうふう	2	
248	ふかふか	2	
249	ふつつん	2	
250	ぶよぶよ	2	
251	ぶよぶよ	2	
252	ふらっと	2	
253	ぶらぶら	2	
254	ぶりぶり	2	
255	ぶりぶり	2	

	順位	語	度数
256	185	ぶるぶる	2
257		ぺらぺら	2
258		ほくほく	2
259		ぽっかり	2
260		ほっこり	2
261		ぽってり	2
262		むちゃくちゃ	2
263		めきめき	2
264		めちゃめちゃ	2
265		もうもう	2
266		やきもき	2
267		わあわあ	2

国立国語研究所が行った「現代雑誌 200 万字言語調査」の資料として、始めに絞り込まれた雑誌の数は 411 であり、そこからさらにデータ抽出の対象とされた雑誌は 70 である。それらは 5 つのジャンルにわたっており、「総合・文芸」のジャンルには総合誌、娯楽・読物、「女性・服飾」には女性総合誌と女性ファッションなど、「実用」には料理、ハウジング、赤ちゃん・育児、保健衛生・医学、経済、電気、コンピュータなど、「趣味・娯楽」には旅、スポーツ、自動車、囲碁・将棋、音楽、ペット、つりなど、「芸術・科学」には音楽、写真・カメラ、文学、美術など、ありとあらゆる分野の雑誌がその対象となっていることがわかる。

これらの雑誌記事に見られたオノマトペのうち、出現度数の上位 5 語は、「たっぷり」「はっきり」「すっきり」「びったり」「きちんと」であり、新聞記事の上位 5 語と重なるのは、「はっきり」と「きちんと」の 2 語である。特に第 2 位の「はっきり」は、新聞記事においても第 1 位、第 5 位の「きちんと」は同じく第 2 位であるから、この 2 語は、様々な言語資料において非常に多く用いられていることが推測される。

また、これ以外の「たっぷり」「すっきり」「びったり」の新聞記事における出現度数順は、それぞれ第 34 位、16 位、42 位であることから、この 3 語は、特に雑誌記事に特徴的なオノマトペであると言える。そして、これらの語が使われる文脈としては、料理や健康・美容、趣味など日常生活に密着した話題や場面が想像される。また、新聞記事、雑誌記事それぞれ上位 10 語までで比較してみると、新聞記事の上位 10 語と重ならない語として、上記 3 語以外には第 10 位の「ちゃんと」がある。この「ちゃんと」も、文章語というよりむしろ日常会話に多く見られる語であると思われる。

3. 1. 3 シナリオに見られるオノマトペ

資料としたのは、以下の 2 冊のシナリオ集に収録されている映画のシナリオ 10 点と、テレビドラマのシナリオ 7 点の計 17 作品である。収録されている作品名と作家は、それぞれ以下の通りである。

- (1) 『'02 年鑑代表シナリオ集』シナリオ作家協会 年鑑代表シナリオ集編纂委員会
(2003) シナリオ作家協会

1. 「KT」 荒井晴彦

2. 「UNLOVED」 万田珠美・万田邦敏
3. 「陽はまた昇る」 西岡琢也・佐々部清
4. 「笑う蛙」 成島 出
5. 「ごめん」 山田耕大
6. 「OUT」 鄭 義信
7. 「たそがれ清兵衛」 山田洋次・朝間義隆
8. 「LAST SCENE ラストシーン」 中村義洋・鈴木謙一
9. 「AIKI」 天願大介
10. 「夜を賭けて」 丸山昇一

(2) 『テレビドラマ代表作選集 2003 年度版』日本脚本家連盟編著 (2004) 日本脚本家連盟協同組合

1. (芸術祭優秀賞)「SABU～さぶ～」 竹山 洋
2. (芸術祭優秀賞)「焼け跡のホームランボール」 尾西 兼一
3. (芸術祭優秀賞)「抱きしめたい」 吉田 紀子
4. (芸術祭優秀賞)「夏の約束」 伊藤康隆
5. (向田邦子賞)「北の国から2002 遺言」 倉本 聰
6. (芸術祭大賞)「神様」 原田 裕文
7. 「ポンソソファ」 長川千佳子

シナリオは、「セリフ」の部分と「ト書き」の部分とに大きく分けられるので、今回の調査では、両方を合わせた全体の出現頻度と、「セリフ」の部分、「ト書き」の部分それぞれにおける出現頻度という3種類のデータを作成した。全17作品に出現したオノマトペの総数は約1700語であるが、そのうち出現回数4回以上のものを出現頻度順に並べたものが【表3】(1)である。次に、「セリフ」の部分708語のうち、3回以上出現したオノマトペが【表3】(2)に、「ト書き」の部分995語のうち、3回以上出現したオノマトペが【表3】(3)にそれぞれ記載してある。³

³ シナリオに見られるオノマトペの表記は、「ひらがな」と「カタカナ」の両方が混在しているが、ここではオノマトペの表記による違いということとは考えず、用例として出てきた中から多く見られると思われたほうの表記を採用している。

【表3】 「シナリオに見られるオノマトペ」(1)

<全体>

	順位	語	出現数		順位	語	出現数
	1	ゆっくり	74		56	こっそり	6
	2	ジッと	70		57	チュッ	6
	3	そっと	35		58	ドキドキ	6
	4	ぼつり	29		59	ドキリと	6
	5	ブツブツ	27		60	どっと	6
	6	そろそろ	24		61	ハーッ	6
	7	ハッ	24		62	バタン	6
	8	どンドン	23		63	パッと	6
	9	スッと	22		64	ばんばん	6
	10	きちんと	21		65	ピクリ	6
	11	ぴっくり	21		66	ヒラヒラ	6
	12	しっかり	19		67	ブスッ	6
	13	ハッキリ	17		68	ボン	6
	14	ふっと	17		69	ヨロヨロ	6
	15	すっきり	16		70	がっくり	5
	16	カッと	15		71	ギロリ	5
	17	さっさと	14		72	コツコツ	5
	18	ニッコリ	14		73	しょんぼり	5
	19	のんびり	14		74	じろじろ	5
	20	ポカンと	14		75	ちらちら	5
	21	ぼんやり	14		76	ニッと	5
	22	ホッ	13		77	ニンマリ	5
	23	ジロリ	12		78	のろのろ	5
	24	ニコッ	12		79	バシヤバシヤ	5
	25	フラフラ	12		80	ヒョイ	5
	26	ちらっと	11		81	いそいそ	4
	27	バラバラ	11		82	うんざり	4
	28	ギョッ	10		83	カチャカチャ	4
	29	きよとん	10		84	がっかり	4
	30	さっぱり	10		85	キュッ	4
	31	フン	10		86	ぐいと	4
	32	ボツンと	10		87	ぐずぐず	4
	33	ムッと	10		88	ぐっと	4
	34	ふうっと	9		89	ぐんぐん	4
	35	ポロポロ	9		90	こそこそ	4
	36	もぞもぞ	9		91	しんみり	4
	37	ガタガタ	8		92	ズタズタ	4
	38	キョロキョロ	8		93	ずるずる	4
	39	ニコニコ	8		94	ゾッと	4
	40	ペコリと	8		95	ダッ	4
	41	ぼうっと	8		96	チラと	4
	42	わざわざ	8		97	チラリ	4
	43	イライラ	7		98	ツカツカ	4
	44	うろうろ	7		99	ドサッ	4
	45	ガタン	7		100	とんとん	4
	46	ガッと	7		101	ニヤッと	4
	47	ガンガン	7		102	ニヤニヤ	4
	48	サッと	7		103	ばたばた	4
	49	ドキッ	7		104	ぱったり	4
	50	ドキンと	7		105	ぴったり	4
	51	ビクッ	7		106	ぶっと	4
	52	ひよっと	7		107	ふと	4
	53	ぶるぶる	7		108	ペラペラ	4
	54	ギラッ	6		109	ボソッと	4
	55	ケタケタ	6		110	メチャクチャ	4
					111	わっと	4

【表3】 「シナリオに見られるオノマトペ」(2)

<セリフ>

	順位	語	出現数
1	1	じっと	22
2	2	そろそろ	21
3	3	ポツリ	19
4	4	きちんと	18
5		ブツブツ	18
6		ゆっくり	18
7	7	びっくり	16
8	8	しっかり	15
9	9	はっきり	13
10	10	すっきり	12
11	11	どンドン	11
12	12	さっさと	10
13		のびのび	10
14		ハッ	10
15		バラバラ	10
16	16	さっぱり	9
17		ホッ	9
18	18	ニコッ	8
19		ムッと	8
20		わざわざ	8
21	21	かっと	7
22		ひよっと	7
23	23	いらいら	6
24		こっそり	6
25		そっと	6
26		ドキドキ	6
27		ドキリと	6
28		ヒラヒラ	6
29	29	ジロリ	5
30		ドキンと	5
31		パンパン	5
32		フッと	5
33		フン	5
34		ぼろぼろ	5

	順位	語	出現数
35	35	うろうろ	4
36		がっかり	4
37		ぎよっ	4
38		ギラッ	4
39		グイと	4
40		ドキッ	4
41		にっこり	4
42		ペラペラ	4
43		ポオーッと	4
44		ボソッと	4
45	45	あっさり	3
46		きよとん	3
47		ギロリ	3
48		ぐずぐず	3
49		コソコソ	3
50		コツコツ	3
51		サッと	3
52		じろじろ	3
53		しんみり	3
54		ズタズタ	3
55		そっくり	3
56		ニコニコ	3
57		ばったり	3
58		パッと	3
59		びくり	3
60		ぶるぶる	3
61		ぽかんと	3
62		メチャクチャ	3

【表3】 「シナリオに見られるオノマトペ」(3)

<ト書き>

	順位	語	出現数
1	1	ゆっくり	56
2	2	じっと	51
3	3	そっと	29
4	4	スツと	22
5	5	ハッ	14
6	6	どンドン	12
7		ふっと	12
8		ぼんやり	12
9	9	ちらっと	10
10		ニッコリ	10
11		のんびり	10
12		ブラブラ	10
13		ぽつり	10
14	14	ブツブツ	9
15		ぽつんと	9
16		カッと	8
17		キョロキョロ	8
18		ペコリと	8
19	19	ガタガタ	7
20		ガタン	7
21		ガツと	7
22		ガンガン	7
23		きよどん	7
24		じろり	7
25		フーッ	7
26		ポカンと	7
27		もぞもぞ	7
28	28	ギョッ	6
29		バタン	6
30		ビクッ	6
31		ヨロヨロ	6
32	32	がっくり	5
33		サッと	5
34		すっきり	5
35		どっと	5
36		ニコニコ	5
37		のろのろ	5
38		バシヤバシヤ	5
39		ハッキリ	5
40		ビクク	5
41		ひよい	5
42		フン	5
43		ぼん	5
44	44	いそいそ	4
45		キュッ	4
46		ぐっと	4
47		ケタケタ	4
48		さっさと	4
49		しっかり	4
50		しょんぼり	4
51		ダッ	4
52		チュッ	4
53		ちらちら	4
54		チラと	4

	順位	語	出現数
55	44	ツカツカ	4
56		とんとん	4
57		にこっ	4
58		ニンマリ	4
59		びったり	4
60		ぶすっ	4
61		ぼうっと	4
62		ぼかんと	4
63		ほっ	4
64		ポロボロ	4
65		わっと	4
66	66	うろうろ	3
67		おろおろ	3
68		ガシッと	3
69		カチャカチャ	3
70		ガッ	3
71		ガラン	3
72		きちんと	3
73		きっちり	3
74		ギュッと	3
75		ギラギラ	3
76		くすっ	3
77		ぐんぐん	3
78		げらげら	3
79		ゴシゴシ	3
80		こっくり	3
81		じーっと	3
82		シーン	3
83		スラリ	3
84		ずるずる	3
85		ゾッと	3
86		そろそろ	3
87		そわそわ	3
88		ダーッと	3
89		ドキッ	3
90		ドサッ	3
91		トボトボ	3
92		ニッと	3
93		ニヤッと	3
94		ニヤニヤ	3
95		のっそり	3
96		ばたばた	3
97		バツと	3
98		パツと	3
99		ばんと	3
100		ひそひそ	3
101		ふと	3
102		ブルブル	3
103		ぺたんと	3
104		ポコスコ	3
105		ぽつりぽつり	3
106		ワァーッ	3

まず、全体として多く出現したのは、登場人物の様子や心情を表す「人：擬態語」である。【表3】(1)の上位111語のうち、人物以外の物や状況を表す「物・擬態語」として用いられていると思われるものを探すと、「ガタン」「バタン」「ヒラヒラ」「カチャカチャ」「ドサッ」などわずか数語である。また、一般の副詞として考えられている「ゆっくり」「そろそろ」「きちんと」「しっかり」「はっきり」「じっと」「そっと」などは、新聞や雑誌記事と同様、上位に入ってきているが、やはりシナリオという資料の性格上、そのほとんどが「人」の行動や心情を表すオノマトペであることがわかった。

次に、「セリフ」と「ト書き」とでは出現したオノマトペに違いがあると推測されるので、その内容を見てみる。上位15語で比較してみると、共通しているのは「じっと」「ポツリ」「ブツブツ」「ゆっくり」「どンドン」「ハッ」の6語である。「セリフ」に多く出てくる「そろそろ」「きちんと」「びっくり」「しっかり」「はっきり」などは、そもそも人の発話に現れるもので、様態を表す語としては使われていないのであろう。上記の5語が「セリフ」として具体的にどのように使われたか、以下にシナリオ中の用例を挙げる。(下線は筆者。[]内は出典)

「そろそろ」

- (1) 邦子「そろそろ買い替え時じゃないんですか、これ」([OUT])
- (2) 鎌取「いいんじゃないですかね、もうそろそろ退院しても」([AIKI])

「きちんと」

- (3) 相沢「(堂々と) 利子はきちんと納めております」([笑う蛙])
- (4) 純「イヤ！要するに、自分としては、物事にケジメをきちんとつけるタチで」([北の国から 2002 遺言])

「びっくり」

- (5) 倉田「えらく上達してるな、七尾。びっくりやわ。今日の練習試合、期待できそうやないの」([ごめん])
- (6) おすえ「おのおぶさん、綺麗ね、びっくりした」([SABU])

「しっかり」

- (7) 太一、必死に坂を上がろうとしているが、きつい。理学療法士「しっかり！このぐらいで音を上げてるようじゃ、コンビニにも行けないぞ！」([AIKI])
- (8) 倫之丞「待て。お前は朋江を見損ってはいねか。あれは意外にしっかりしたおなごだぞ」([たそがれ清兵衛])

「はっきり」

- (9) 和美「あのな」明「何やねん、はっきり言うてや」([ポンソソファ])
- (10) 早苗「それはそうなのよねえ。早いとこはっきりさせて、再婚でもできたらいいんだけど、ねえ涼子」([笑う蛙])

一方の「ト書き」のほうであるが、「セリフ」のほうではあまり多く見られなかった「そっと」「スッと」「ふっと」などが上位語になっている。これらは、人の動きの様態を表す「人・擬態語」であり、ト書きの中で登場人物の動きを指示したものと思われる。以下に「セリフ」の中のオノマトペと同様に、これらの語が用いられた文例を挙げる。

「そっと」

- (11) そっと愛しそうに手で触れる、加賀谷。([陽はまた昇る])
- (12) セイ、ドアを開けてそっと入って来る。([ごめん])

「スッと」

- (13) 勝野はすっと立ち上がるとドアに向かう。([UNLOVED])
- (14) 学校へ登校する子供たち、と逆らうように風呂上りの義夫が歩く。スッと振り返る。
([夜を賭けて])

「ふっと」

- (15) 朋子「(不意に、ふっと笑う) ……」([抱きしめたい])
- (16) 義夫「……あの餓鬼」フッと気づいて、花模様のハンカチを見る。([夜を賭けて])

以上、シナリオに出現したオノマトペについてその用例も挙げながら見た。この資料においても、同じ語がセリフである場合とト書きになっている場合と、それぞれどのような

意味や用法として用いられることが多いのかなど、さらにいろいろな角度からの考察が可能であると思われる。今後の課題としたい。

3. 1. 4 漫画に見られるオノマトペ

各種言語資料の中で最後に調査したのは、漫画である。近年、日本の漫画やアニメは、いわゆるサブカルチャーとして海外においても非常なブームになっており、日本語学習の動機として日本の漫画が読みたい、日本語のアニメが見たいというような声も多く聞かれるようになってきている。また、漫画やアニメに多く用いられると言われるオノマトペは、しばしば翻訳が非常に難しく、時に翻訳が不可能な場合には日本語のオノマトペがそのまま翻訳版にも見られるそうである。

さて、では実際に漫画やアニメにはどのようなオノマトペが多く見られるのだろうか。それらは、新聞記事や雑誌記事、またシナリオに見られるオノマトペとどのように異なるであろうか。今回、調査の対象としたのは、長期にわたって根強い人気を維持してきた漫画『ドラえもん』である。『ドラえもん』の主人公は、小学生とその友人たち、また主人公の小学生の家に未来からやってきたという猫型ロボットのドラえもんである。小学生のいるごく一般的な家庭の様子や家族との会話、通っている小学校での学校生活の様子、友人たちとの交流など、日常的な場面も多く出てくることから、日常生活におけるオノマトペの使用の状況を垣間見ることができることを期待して、調査の対象とした。

出現するオノマトペのデータは、『ドラえもん』に関して様々な面から調査と分析を行い、データベースとしてインターネットに公開している以下のサイトから収集した。

『ドラえもん』（短編 45 巻）の擬音語・擬態語」富山大学ドラえもん学コロキウム

<http://www.inf.toyama-u.ac.jp/doraemon/index.html>

【表 4】は、『ドラえもん』に出てきたオノマトペのうち、出現回数 8 回以上の 199 語までを出現頻度順に並べたものである。

【表4】 「漫画に見られるオノマトペ」(1)

	順位	語	出現数
1	1	そろそろ	163
2	2	わっ	109
3	3	どんどん	108
4	4	しっかり	98
5		ぼーん	98
6	6	ごろごろ	90
7	7	ゆっくり	89
8	8	ちゃんと	77
9	9	きゃー	62
10	10	ぱっ	55
11	11	ぼい	54
12	12	むくむく	51
13	13	がつん	49
14	14	ぱくぱく	48
15	15	きゃっ	46
16	16	がみがみ	45
17		どたどた	45
18		ぱちぱち	45
19	19	はくしよん	44
20	20	わんわん	43
21	21	ちーん	42
22	22	ぐい	41
23		ひよい	41
24		わーわー	41
25	25	きっさと	38
26		どたばた	38
27	27	ふらふら	37
28	28	ごほごほ	35
29	29	うっかり	34
30		こっそり	34
31		ころころ	34
32	32	かちかち	33
33		きちんと	33
34		げらげら	33
35		ちょん	33
36		どかん	33
37	37	いらいら	31
38		どきどき	31
39		どしん	31
40	40	ひらひら	30
41		ぽんぽん	30
42		むしゃむしゃ	30
43	43	ずるずる	29
44		ばたん	29
45	45	うろろ	28
46		くすくす	28
47		すっかり	28
48	48	きよるきよる	27
49		どっさり	27
50		はっ	27
51		ぱらぱら	27
52		ぺこぺこ	27
53	53	がーん	26
54		かちっ	26
55		がちゃん	26
56	56	さっぱり	25

	順位	語	出現数
57	56	ずしん	25
58		すてん	25
59		ふわふわ	25
60	60	ごしごし	24
61		よろよろ	24
62	62	びったり	23
63		もぐもぐ	23
64	64	がくがく	22
65		ぐずぐず	22
66		ごちん	22
67		ばらばら	22
68		ぼりぼり	22
69	69	ごどん	21
70		すらすら	21
71		はーはー	21
72		めちやくちや	21
73		わーっ	21
74	74	ぱっと	20
75		むしゃくしゃ	20
76	76	かりかり	19
77		ばたばた	19
78		ぶつぶつ	19
79	79	ぎゃー	18
80		ぐるぐる	18
81		ばさばさ	18
82		ぴよん	18
83		めちやめちや	18
84	84	かーん	17
85		がらがら	17
86		かんかん	17
87		ぐらぐら	17
88		ごそごそ	17
89	89	がやがや	16
90		こつん	16
91		さらさら	16
92		すっく	16
93		どかどか	16
94		どさどさ	16
95		ばしゃばしゃ	16
96		ぼっちり	16
97		ひゅん	16
98		ぺらぺら	16
99	99	かちやかちや	15
100		ぐー	15
101		ごどごと	15
102		そわそわ	15
103		ばん	15
104		ぴよこぴよこ	15
105		ぴよんぴよん	15
106		もたもた	15
107		よたよた	15
108	108	がたがた	14
109		ぐんぐん	14
110		ごくごく	14
111		こそこそ	14
112		さっと	14

【表4】 「漫画に見られるオノマトペ」(2)

	順位	語	出現数
113	108	しーっ	14
114		すーっと	14
115		ぞくぞく	14
116		そろりそろり	14
117		ばたばた	14
118		ぶくぶく	14
119		119	ぐいぐい
120	ごっん		13
121	ぼんぼん		13
122	122	がちゃがちゃ	12
123		きーっ	12
124		くるくる	12
125		くるり	12
126		ごくり	12
127		ころん	12
128		するする	12
129		たっぷり	12
130		つるり	12
131		どすどす	12
132		ばっばっ	12
133		びーびー	12
134		ひよこひよこ	12
135		ぶるぶる	12
136		ぽかぽか	12
137		むずむず	12
138		138	うんざり
139	かたかた		11
140	かちん		11
141	くるっ		11
142	くんくん		11
143	そっくり		11
144	そろり		11
145	ちゅー		11
146	びゅー		11
147	ぶーん		11
148	ぼつぼつ		11
149	149	がっがっ	10
150		きゃーきゃー	10
151		ぎりぎり	10
152		ぐったり	10
153		しっしっ	10
154		じゃー	10
155		じゃんじゃん	10
156		ずぶずぶ	10
157		ちゃかちゃか	10
158		どきん	10
159		ぼんぼん	10
160		びゅん	10
161		ひらり	10
162		ふーっ	10
163		ふーふー	10
164	164	ぐっすり	9
165		こんこん	9
166		じーんと	9
167		じゃっ	9

	順位	語	出現数
168	164	ちょろ	9
169		のんびり	9
170		ひよいひよい	9
171		ふんふん	9
172		ぼるぼる	9
173		ぼんやり	9
174		めりめり	9
175		もじもじ	9
176		わくわく	9
177		177	がさがさ
178	がたん		8
179	がちがち		8
180	がちん		8
181	かりっ		8
182	くよくよ		8
183	ごちごち		8
184	ごろん		8
185	ざくざく		8
186	ざっと		8
187	ざわざわ		8
188	しーん		8
189	じろじろ		8
190	そよそよ		8
191	ちよいちよい		8
192	どたん		8
193	どろどろ		8
194	ばっば		8
195	ぴかぴか		8
196	びくびく	8	
197	ぶらぶら	8	
198	へとへと	8	
199	みっちり	8	

一般に、オノマトペは漫画やアニメーションなどに多用される語として認識されていると思われるが、やはり出現したオノマトペの種類は、他の資料に比べても非常に多いことがわかる。出現総異なり語数は223語であるから、【表4】でその約9割の語が見られることになる。

出現したオノマトペの種類は、漫画という資料の性格上、「擬声語」「擬音語」が相当数含まれていることがわかる。上位52語までに、「わっ」「ぽーん」「きゃー」「どたどた」「ばちばち」「はくしょん」「わんわん」「ちーん」「わーわー」「どたばた」「ごほごほ」「げらげら」「どしん」「ぼんぼん」「ばたん」など15語が見られる。⁴ また、主人公とその周囲を取り巻く登場人物の多くが小学生の子供であるためか、食べることに関係したオノマトペ（「ばくばく」「むしゃむしゃ」「ぺこぺこ」「もぐもぐ」「ごくごく」など）、また歓声や叫び声、笑い声を表すオノマトペ（「きゃー」「きゃっ」「わーわー」「げらげら」「くすくす」「わーっ」「ぎゃー」など）が多く見られるのも特徴的である。

他の資料に多く見られた語のうち、「ゆっくり」「しっかり」「そろそろ」「ちゃんと」「どんどん」は上位10語以内に入っているが、「きちんと」は、これらの語と比べるとそれほど出現数が多くない。また、「はっきり」は、このデータベースには一語も出てこない。このデータベースは、角川書店の『擬音語・擬態語辞典』（浅野，1978）に出ているオノマトペを対象として作成されているということであるが、この辞典の見出し語に「はっきり」があるにもかかわらず、データの中に一語もないというのは疑問である。データベースの作成者が「はっきり」をオノマトペとは認識しなかったということであろうか。

以上見てきた通り、漫画に出てくるオノマトペは、他の資料とはかなりその様相が異なることが明らかになった。

3. 1. 5 まとめと考察

3. 1節では、各種言語資料に見られるオノマトペを、新聞、雑誌、シナリオ、漫画という4種類の資料を通して調査・考察した。各資料の性質や元のデータの総語数、出現したオノマトペの総語数もそれぞれ異なるため、単純に比較検討することはできないが、どの資料においても上位に見られた語というのは、やはり日常的に多く用いられている語で

⁴ このデータベースでは一つひとつの用例が確認できないので、これらの語が、実際には擬態語として用いられている可能性も残されてはいる。

あるということができると思う。4種の資料において、上位50語（同数の場合は、50語以上の場合もある）に出現した語のうち、4種すべての資料に見られたのが以下の6語である。

いらいら きちんと しっかり すっかり どんどん ゆっくり

また、3種の資料に見られたのは以下の8語である。

さっと さっぱり そろそろ ちゃんと にこにこ のんびり
はっきり ゆっくり

以上の調査と考察を、第5章において「基本オノマトペ」を選定し、第6章でその「基本オノマトペ」をリソース化する際の参考としたい。また、各種言語資料については、今回調査した以外の様々な資料について、今後も引き続き調査と分析を行っていきたい。特に、オノマトペの使用が最も多く見られると推測される「話し言葉」に見られるオノマトペの調査を行いたいと考えている。今後、母語話者同士の日常会話における「話し言葉」のコーパスが公開され、調査や分析に利用できるようになることを期待したい。

3. 2 中級教科書のオノマトペ

3. 2節では、現存する日本語中級教科書にどのようなオノマトペが見られるかについて調査・報告する。日本語教育における中級というのは、学習者のいわゆる4技能における言語能力、また教授項目としてのシラバス、指導のカリキュラム、教室活動の種類と内容等、様々な面で非常に幅のある段階である。特に、中級の教室活動でメインとなっていると思われる読解の授業において扱う教科書や読解教材は、書き下ろしのものから生教材を一部加工したもの、生教材にまったく手を加えていないオーセンティックな教材まで、その言語素材という観点から言っても種々雑多である。そしてそこに取り上げられるテーマと具体的な内容も、日本語教育の中級として一定のスタンダードが定められているわけではない。当然、学習者が会える語彙や表現も、使用する教科書や教材によって非常に異なってくるということになる。⁵ 中級においては、教科書や教材によって行き当たりばつたりの素材やテーマが選ばれているとも言われる所以である。

このように、中級教科書の本文として採用されている読解素材には、書き下ろしもあるが、新聞や雑誌記事、小説など生教材から取られたもの、またそれらを中級用に一部書き直したものも含まれる。ということは、3. 1節で調査した各種言語資料に見られるオノマトペと、中級教科書におけるオノマトペの出現状況は一部重複していることになり、ある言語資料を対象とした純粋な語彙調査という意味では整合性がないことになる。しかし、生教材から構成される上級教科書・教材と、すべて書き下ろしからなる初級教科書の間位置する中級教科書を調査することによって、学習者が中級段階において会えるオノマトペにはどのようなものがいくつあるのか、また複数の教科書・教材に共通して出現するオノマトペがあるのか等、中級におけるオノマトペ教育の一側面を知り、それを教育に生かすことができるのではないかと考え、調査の対象とした。

ここでは、始めに3. 2. 1項で調査方法と調査結果のまとめ方、その記述方法について説明する。3. 2. 2項では、調査対象とした各中級教科書の概要と出典、提示される語彙数等についてまとめる。続く3. 2. 3項では、各教科書に見られるオノマトペの種類と数、さらにどの教科書にどのようなオノマトペがいくつ出現したかを一覧表で示す。

⁵ 日本語教育においても「日本語スタンダード」を作成する試みは、東京外国語大学留学生センター等でなされているが、まだ米国の「ナショナル・スタンダード」のように全国的に統一されたものは見当たらない。

また、複数の中級教科書に見られるオノマトペにはどのようなものがあるか、そのうち最も多く見られるオノマトペは何かなど、中級教科書全体における出現頻度順に並べた表も提示する。これらの調査結果を基に3. 2. 4項でまとめと考察を行う。

3. 2. 1 調査の方法と結果の記述方法について

始めに、調査の対象とした教科書の特徴、特に導入される語彙数等についての概要をまとめる。次に各レベル、各教科書において、(1) 出現したオノマトペの種類と出現数を集計した表、(2) 出現したオノマトペとその教科書の対応一覧表、(3) 出現したオノマトペの出現頻度順の表を提示する。各レベルの各教科書におけるすべてのオノマトペとその用例は、教科書ごとに別冊資料に掲載する。

次に、中級では書き下ろし文ではない部分、すなわち生教材か生教材を元に書かれたものについては、その出典を記載する。初級では本文、会話文、練習問題等がすべて書き下ろし文であることから出典は記載しない。

ここで、(1) の表で集計するオノマトペの種類については次のように考える。1. 1節で述べた通り、金田一(1978)は、日本語オノマトペを以下のように5つに分類している。

- ① 擬音語・・・自然界の音や事物が出す音を描写したもの
- ② 擬声語・・・動物や人の声を描写したもの
- ③ 擬態語・・・事物の様子を描写したもの
- ④ 擬容語・・・動物や人の動きの様子など外見から察することのできる状態を描写したもの
- ⑤ 擬情語・・・外見からは判断しにくい人の感情や感覚などを描写したもの

この5つの分類のうち、④の「擬容語」と⑤の「擬情語」は厳密に区分できないものもあると思われる。例えば「いらいらする」というオノマトペがあるが、これはもちろん感情、すなわち心の内面を描写しているから⑤の「擬情語」に分類されるものである。ところが同時に、他者から見ても外見で「いらいらしている」様子が見てとれる場合もあり、その場合、④の「擬容語」としての要素も持つことになると思われる。「がっかりする」「うきうきする」等も、内面の心情を表すと同時に、表情、態度等から他者にもその心情が推

測されうるものである。しかし、例えば痛みを表すオノマトペである「きりきり」と「ずきずき」の場合には、その痛みの様子や程度が分かるのは本人だけであって、外見からその状態の違いを判断することはできない。このように、「擬容語」か「擬情語」か容易に判定できるものがある一方、どちらにも解釈できるものがあるのは分類としては好ましくないとと思われる。よって、本論では、④の「擬容語」と⑤の「擬情語」を併せて「人の感情や感覚、様子を描写したもの」とし、「人・擬態語」という名称で呼ぶこととする。また金田一の分類でいう③「擬態語」は事物の様子について用いられるということであるから、これを「物・擬態語」と名付ける。従って、3. 2節と3. 3節では、日本語オノマトペの種類を以下の4つに分類して調査と考察を行うこととする。

- (1) 擬音語・・・自然界の音や事物が出す音を描写したもの
- (2) 擬声語・・・動物や人の声を描写したもの
- (3) 物・擬態語・・・事物の様子を描写したもの
- (4) 人・擬態語・・・人の感情や感覚、動作の様子を描写したもの

3. 2. 2 調査の対象とする中級教科書

(1) 『新日本語の中級』（財）海外技術者研修協会編著（2000）スリーエーネットワーク
『新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』の初級レベルを終了した人が、既習の知識を統合し、実社会で役立つ実践的会話能力を身につけ、日本人との豊かなコミュニケーションができることを目指し作成された教科書。全20課で語彙数は1,242語とかなり多くなっている。語彙の負担を軽減するために運用語彙と理解語彙に分けていて、必ずしも運用までは要求しない理解語彙が284語となっている。また学習項目として「擬態語」が7課、10課、16課と3回にわたって取り上げられているのが特徴的である。

(2) 『日本語中級J301』土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・鶴尾能子（1995）スリーエーネットワーク

初級を終えた学習者に、読み書き能力の基礎をつけさせ、中級への橋渡しをする教科書。中級レベルの語彙・表現を身につけること、目的をもって読む、先行知識を活性化させる、

予測しながら読む、などの読みのスキルを向上させること、自律学習を促すことなどが目標とされている。本文各課の出典は以下の通り。

- 第1課 「舌を出したアインシュタイン」『[図解]アインシュタインの世界—天才物理学者に関する60の疑問』平井正則監修、三品隆司+studio HETERO 編 PHP研究所より
- 第2課 「わたしと小鳥と鈴と」『金子みすゞ童謡集 わたしと小鳥とすずと』矢崎節夫選 JULA出版局より
- 第3課 「「デスクトップ型」？「ブック型」？」『ASHAHI パソコン超ビギナーズ版 ばそ Paso』創刊号 No.1 朝日新聞社出版局より
- 第4課 「ながーい日本列島—南北でこんなに違う梅の開花日」『続統計よもやま話の本絵で見る暮らしのデータバンク』大蔵省出版局より
- 第5課 「待ってイライラ。あなたはどれだけ待てますか？」『ビジネスマン雑学ハンドブック 1994年版』PHP研究所より
- 第6課 「お化けと幽霊」『ことばの歳時記』金田一春彦 新潮社より
- 第7課 「あのときはどうも」関正昭 南日本新聞 1993年11月16日夕刊より
- 第8課 「クジラと日本人」『学校で教えない科学常識のウソ、ホント知っているつもりで大間違い』KK経済界より
- 第9課 「サルの視力検査」『Q&Aでわかる脳と視覚』乾敏郎 サイエンス社より
- 第10課 「子どもの絵」『ふしぎなことばことばのふしぎ』池上嘉彦 筑摩書房より

(3) 『日本語中級 J501—中級から上級へ—』土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・石沢弘子 (1999) スリーエーネットワーク

『日本語中級 J301—基礎から中級へ—』の続編で、「501」の数字が示す通り、500時間程度の日本語学習を終えた人のための教科書。『J301』と同様、「自己開発能力の養成」を目ざし、「問題発見」「問題解決」に対して学習者がより積極的に取り組めるような工夫がなされている。新出語彙総数は2,694で「ことばのネットワーク」のコーナーの練習を通して、学習のプロセスの中で習得語彙の量的・意味的拡充が図れるようになっている。

本文各課の出典は以下の通り。

- 第1課 海外技術者研修協会「文化と偏見」『発展途上国研修生の日本体験』草思社
 (練習B) 板坂元『異文化摩擦の根っこ』スリーエーネットワーク
- 第2課 鮫島勝人「マナーもいっしょに「携帯」」南日本新聞 1996年5月6日朝刊
- 第3課 柳原和子「「在外」日本人」『「在外」日本人』昌文社
 (練習B) 小林洋子「オバサンの逆襲—ビジネスマンの分別—」毎日新聞 1994年11月12日朝刊
- 第4課 中山典之「心の交流」『囲碁の世界』岩波書店
 (練習B) 直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』大修館書店
- 第5課 末永蒼生・沢田としき「洋服の色で知る今日のわたし」『色彩楽』日本ヴォーグ社
 (練習B) 渡辺茂『認知の起源をさぐる』岩波書店
- 第6課 笹井理生「ひとしずくの水にあふれる個性」朝日新聞 1996年4月23日朝刊
 (練習B) 朝日新聞 1997年10月24日朝刊
- 第7課 さくらももこ「夢みる恋の日記帳」『もものかんづめ』集英社
 (練習B) 吉本ばなな『キッチン』ベネッセコーポレーション
- 第8課 「法とことば」『法と日本語』有斐閣
 (練習B) 岸本重陳『新版経済のしくみ 100話』岩波書店
- 第9課 リービ英雄「李良枝からの電話」『日本語の勝利』講談社
 (練習B) 椎名桜子『それでもわたしは白い服がほしい』マガジンハウス
- 第10課 本川達雄「ゾウの時間ネズミの時間」『ゾウの時間ネズミの時間』中央公論社
 (練習B) 岩男寿美子・萩原滋『留学生が見た日本』サイマル出版会

(4) 『中級日本語』東京外国語大学留学生日本語教育センター編 (1994) 凡人社

『初級日本語』に続けて、さらに中級レベルの日本語習得を目指すテキスト。全21課。提出語彙数は2,400語で、主に国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』の上位6,000語から選出されている。教材のうち3割は、資料に基づく書き下ろし、あとの7割は、国語教科書、新聞記事等に基づくものであるが、中級段階の学習者対象という配慮のもと、著者の了解を得て、原文に手を加えている。参考にした資料は以下の通り。

- 第1課 光村図書 『小学新国語』 「りんごとみかん」
- 第6課 東京書籍 『新訂新しい国語』 「銀貨や銅貨はなぜ丸いか」
- 第8課 東京書籍 『新しい国語』 岩淵悦太郎 「コンニチワ」
- 第9課 学校図書 『小学校国語』 「すまいのくふう」
- 第10課 教育出版 『新小学校国語』 倉嶋厚 「天気のことわざを考える」
- 第11課 光村図書 『国語かがやき』 由水常雄 「ガラスの利用」
- 第12課 教育出版 『新訂標準国語』 「野口英世」
- 第13課 大阪書籍 『小学校国語』 「言葉によらない伝達」
- 第14課 朝日新聞社 『中谷宇吉郎随筆選集』 「抗議する義務」
- 第15課 大阪書籍 『小学校国語』 「テレビ映像の伝えるもの」
- 第16課 東京書籍 『新しい国語』 小泉信三 「練習と人生」
- 第17課 三省堂 『現代の国語』 石田春男 「分ける・押さえる」
- 第18課 朝日新聞社 『朝日新聞』 「天声人語」 1981・2・13
「投書」 ①1981・2・11 投書 ②1986・9・13
- 第19課 朝日新聞社 『朝日新聞 朝刊』 児玉浩徳 「長寿の要件」 1988・4・3
- 第20課 朝日新聞社 『朝日新聞 朝刊』 石弘之 「変曲点 “誤差”」 1987・2・9
- 第21課 東京書籍 『新しい国語』 大林辰蔵 「宇宙人へのメッセージ」

(5) 『テーマ別中級から学ぶ日本語 改訂版』 荒井礼子・太田純子・亀田美保・木川和子・桑原直子・長田龍典・松田浩志 (2004) 研究社出版

1991年に出版された『テーマ別 中級から学ぶ日本語』の改訂版。「初級から中級、さらに、上級への橋渡しを目的」に、「日本の大学・専門学校に進学し学習・研究を目指す人々、また、日本社会との関わりの中で仕事に従事する人々」を対象としている。このような環境において学習者が日常出会うできごと・直面するような問題をテーマとして選び、学習者に興味を持たせると同時に、学習者がすでに持っている意見を少しでも引き出せるよう工夫されている。総語彙数は1,350語である。全25課の本文はすべて著者による書き下ろし文である。

(6) 『文化中級日本語Ⅰ』文化外国語専門学校 (1994) 凡人社

『新文化日本語初級』は文法を体系的に習得することと、日本の生活で日々直面する場面でコミュニケーションができるようにすることを柱に作成されたが、この中級編ではそれに加え、日本の高等教育機関で教育を受けるのに必要な四技能の修得と日本の社会や文化に対する理解を深めることをめざしている。『文化中級日本語Ⅰ』では、『文化初級』に既出の単語を除く総新出語彙数として約 1,500 語が提出される。本文および読解文は以下の著作より書き換えを伴う引用がされている。

長谷川勝行 (1991) 『カルチャーショック最前線』コスモの本

吉岡泰夫 (1990) 「フォーマル・コミュニケーションの壁—若者の談話行動」『言語』
vol.19, No.8 大修館書店

盛田昭夫 (1987) 『MADE IN JAPAN わが体験的国際戦略』朝日新聞社
文化外国語専門学校卒業生 許清美 (授業の一環で作成した投書文)

(7) 『文化中級日本語Ⅱ』文化外国語専門学校 (1997) 凡人社

『文化中級日本語Ⅰ』に続く教科書で、「学習者が日本や日本人、日本語に対する知識を増やし、それらに対する理解をさらに深めること、日本人とのコミュニケーションを円滑に進められるようになることを目指している。全 8 課が 8 つのトピックからなり、各課に二つの「本文」が配され、一つのトピックについて違う切り口から書かれた文章を読み、トピックに対する理解を深めるよう構成されている。第 6 課に「～擬音語・擬態語～」のコラムがある。また本文は以下の著作より文章が提供されている。

『現代用語の基礎知識 1987 年版』自由国民社

「頭の中の映像—ステレオタイプ」岡部朗一 (『異文化コミュニケーションキーワード』
古田暁監修 有斐閣双書 所収)

文化外国語専門学校卒業生 バスケス・モレラ (授業の一環で作成したスピーチ原稿)
財団法人国際教育振興会主催「外国人による日本語弁論大会」で発表されたスピーチ
第 29 回 ジェニー・デービス

ベルナール・ドゥ・ル・クール

第34回 デニス・ムワンサ

「ジャンプ生活で“天国と地獄”を経験した男」岡崎満義（『昭和スポーツ列伝』文春文庫 所収）

「レジャー白書'94」財団法人余暇開発センター

『スーパー日本史』1991 講談社

『日本語 新版（上）』金田一春彦 岩波新書

『サラダ記念日』俵万智 河出書房新社

『地球が危ない—環境を守る暮らしの提案』社団法人日本広報協会

『現代社会』山川出版社

『高校生の現代社会』学研

(8) 『ニューアプローチ中級日本語 基礎編 改訂版』日本語研究社 教材開発室 小柳昇 (2003) 日本語研究社

「初級学習項目と「日本留学試験」を結ぶ橋渡しとして「中級」を位置づけ、コミュニケーション能力に必要な文法項目を厳選し、あわせてコミュニケーション能力の基礎となる表現を提示」した教科書。「日本留学試験」受験者向けのテキストとしてだけでなく、コミュニケーション能力を重視する日本語教育コースにおいても使用できるよう、様々な分野から話題が選ばれている。全20課の本文はすべて書き下ろしである。

(9) 『日本語集中トレーニング —初級から中級へ—』星野恵子・遠藤藍子 (2004) アルク

初級後半から中級前半レベルの学習者が対象。「会話能力、コミュニケーション能力の向上を主なねらいとし、加えて文法の整理、語彙の拡大、読む力、書く力、聞く力の強化など、総合的技能的習得をはかる新しいタイプのテキスト」である。「索引」に載っている語彙は、イディオムや動詞句なども含めて約1,440語。

(10)『日本語中級読解 新版』日本語教育・教師協会 (Jalitta) 編 富岡純子・高岡サク
共著 (1997) アルク

初級から中級入門レベルの読解に多少慣れてきた学習者を対象にした中級レベル (前期から後期まで) の読解教材。テーマは、日常生活、日本文化、文学、芸術、社会、歴史、異文化交流、経済など広範囲にバランスよく取り入れてあり、成人学習者向けにしてある。索引に挙げられた語の総数は、約 1,900 語。全 22 課の本文は、著者の書き下ろしと、新聞記事等からなる。出典が挙げられているものは以下の通り。

5 課 「読売新聞」1992 年 1 月 20 日・2 月 3 日の記事より

8 課 「ダイヤモンドエグゼクティブ」1992 年 7 月号より

17 課 「読売新聞」1992 年 8 月 16 日 “いまどきの方言” より

18 課 「読売新聞記事」＜第 1 話；1992 年 7 月 1 日・編集手帳／第 2 話；1992 年 7 月 13 日・よみうり寸評／第 3 話；1992 年 4 月 3 日・編集手帳＞より

19 課 「読売新聞」1992 年 8 月 9 日 “世界の四季” より

20 課 「朝日新聞」1992 年 9 月 13 日・9 月 17 日・9 月 21 日・9 月 21 日夕刊の各記事より

21 課 日鉄ヒューマンデベロップメント『日本を語る』アルク発行より一部改

(11)『トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級前期』佐々木薫・田口典子・安藤節子・赤木浩文・草野宗子 (2001) スリーエーネットワーク

初級を終了した段階で、調査発表のための日本語運用力を養成したい人を対象とし、勉学・研究のための日本語運用力を養成する目的で作成されたテキスト。学習者が「自分でテーマを探して調査、考察、発表する」ことを目標としているため、全部で 5 つのトピックに「情報」として提示されている「読み物」の量はそれほど多くない。トピックは、さまざまな背景、専門分野の人たちがいっしょに学べるよう、また国を超えて共有できる今日的话题である且つ多様な側面を包括したものが取り上げられている。5 つのトピックは、①「旅行」②「いつ、どこで買う？」③「祭り」④「贈り物」⑤「マスメディア」である。「読み物」のうち、トピック①は書き下ろし、その他の出典は以下の通り。

トピック② 「若者に人気のコンビニ」『消費と生活』223号 消費と生活社 1998年9月1日に基づく

トピック③ 芳賀日出男「夏を楽しむ祭り」『祭りと生活第2巻』小峰書店 1979年に基づく

トピック④ 「手編みはもう贈らない？」朝日新聞 2000年2月9日に基づく

トピック⑤ 社説「子供の目を画面から遮る前に」朝日新聞 1998年3月21日に基づく

(12)『トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級後期』安藤節子・田口典子・佐々木薫・赤木浩文・鈴木孝恵 (2001) スリーエーネットワーク

『トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級前期』の続編で、テキスト作成の目的や対象とする学習者は『中級前期』と同様である。『中級後期』でのトピックは、①「教育」②「ことば」③「コミュニケーション」④「昔話」⑤「住宅」の5つである。出典は以下の通り。

トピック① 中村メイ子「学校を嫌い、寺子屋式教育」『おやじの背中』朝日新聞 1996年12月2日に基づく

トピック③ 金山多美「ガラス戸越しのラブコール」『N T Tふれあいトーク大賞'97』N T T出版 1998年に基づく

トピック④ 日本民話の会編『ガイドブック日本の民話』講談社 1988年
矢崎源九郎『子供に聞かせる世界の民話』実業之日本社 1964年に基づく

トピック⑤ 参考文献：メルヴィン・リー「玄関—日本社会の縮図」『1993—1994年度日本語日本文化研修コース研究レポート集』名古屋大学留学生センター

(13)『中級の日本語』三浦昭・マグロイン花岡直美 (1994) ジャパン・タイムズ

中級レベルの学生の聞・話・読・書の4技能を並行的に伸ばすことをも目標とし、現実的な内容と機能、そして自然な日本語を教えることを目指している。対象とするのは、受け身形、使役形までを含む基本文型と100字程度の漢字の習得を終え、初級レベルの4技

能を一応身につけた学生。語彙は、巻末に約 1,500 語があげられている。

全 15 課は、「会話」と「読み物」からなるが、「読み物」の前半は筆者の書き下ろし、後半の 5 課の「読み物」の出典は以下の通り。

11 課 松本みどり「ジルと暮らした四ヶ月間」『ホストファミリー感想文集 第一集』（南山大学外国人留学生別科 平成元年）より

12 課 永井明『もしも病気になったなら』（岩波ジュニア新書）より

13 課 ドナルド・キーン「日本語をどのように始めたから」『日本を理解するまで』（新潮社）より

14 課 読み物 1 「増えてます、結婚も出産も S a y 『N o』派」朝日新聞（1991 年 12 月 20 日付）

読み物 2 松田道雄「女の三重苦」『私は女性にしか期待しない』（岩波新書）より

15 課 読み物 1 「付き合いは「人間」として」（「テーマ討論・身近な外国人」投書より）朝日新聞（1992 年 2 月 10 日付）

読み物 2 志村史夫「ホンネとタテマエ」『体験的・日米摩擦の文化論』（丸善ライブラリー）より

3. 2. 3 中級教科書に見られるオノマトペ

調査した 13 種の中級教科書に出現したオノマトペを、先に述べたように、擬声語、擬音語、物・擬態語、人・擬態語の 4 つに分類し、その数を集計したものが【表 5】である。表中の教科書名は略称を用い、2 分冊のものはそれぞれ別に集計した。合計の数字は、延べ総出現語数、() 内の数字は、2 回以上出現した場合の異なり語数である。⁶

⁶ 各教科書における異なり語数の合計は、全部の教科書の異なり語数の合計と一致しない。これは、ある教科書において異なり語として数えた語が、他の教科書にも出ているため、全体としての異なり語数にならないからである。また、擬声語、擬音語などのオノマトペの種類による小計と全体の合計とも一致しない。これは、複数の意味を持つ語が、擬音語として用いられったり、擬態語として用いられったりするからであるが、全体の異なり語数はその意味・用法に関係なく、語形として異なるものを数えているためである。

【表5】 「中級教科書に見られるオノマトペ」

教科書名 (略称)	擬声語	擬音語	物・擬態語	人・擬態語	合計
(1)新日本語の中級	1	4(4)	12(9)	41(25)	58(39)
(2)J301	1	2(2)	4(3)	8(8)	15(13)
(3)J501	4(4)	6(5)	7(4)	23(17)	40(32)
(4)外大中級	0	0	6(6)	8(8)	14(14)
(5)テーマ別中級	2(2)	1	14(9)	25(15)	42(21)
(6)文化中級Ⅰ	9(9)	10(9)	15(8)	31(20)	65(40)
(7)文化中級Ⅱ	3(3)	4(4)	20(17)	34(26)	60(49)
(8)ニューアプローチ	2(2)	5(4)	19(13)	63(31)	89(43)
(9)集中トレーニング	0	1	5(4)	26(14)	32(17)
(10)中級読解	0	4(3)	18(14)	43(32)	65(47)
(11)トピック中級前期	0	0	3(2)	6(6)	9(8)
(12)トピック中級後期	6(6)	0	0	28(17)	34(23)
(13)中級の日本語	4(4)	7(5)	5(4)	50(23)	67(33)
合計	32(23)	44(32)	128(53)	386(104)	590(203)
出現総数に対する割合(%)	5.4%	7.5%	21.7%	65.4%	100%

ここで、各教科書に見られるオノマトペを50音順に並べ、それらがそれぞれの教科書に見られたかを一覧にしたものが、【表6】である。また【表7】は、各オノマトペを出現頻度順に並べたものである。

【表6】 「中級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(1)

	語	延べ語数	教科書数	新日本語	J301	J501	外大中級	テーマ別	文化 I	文化 II	アプローチ	集中	中級読解	トピック前期	トピック後期	中級の日本語
1	あっさり	3	2				1				2					
2	あははは	1	1												1	
3	いそいそ	1	1			1										
4	いらいら	10	7	2	1	1		3	1	1	1					
5	うーん	2	2			1		1								
6	うっかり	11	4					1			6	3				1
7	うつらうつら	3	1										3			
8	うとうと	1	1								1					
9	うんざり	2	2				1									1
10	おいおい	1	1												1	
11	おぎやおぎ	1	1												1	
12	おずおず	2	1										2			
13	かしゃかしゃ	1	1							1						
14	がちゃん	1	1						1							
15	がっかり	8	5		1				1		3	1				1
16	がちり	1	1										1			
17	がぶがぶ	1	1												1	
18	からから	3	2	1						1						
19	からっと	1	1								1					
20	がらり	2	2	1							1					
21	かんかん	1	1								1					
22	がんがん	1	1	1												
23	きちんと	9	6	1		2			2	2		1	1			
24	きっちり	1	1			1										
25	きっぱり	1	1										1			
26	きびきび	1	1			1										
27	ぎゃーぎゃー	1	1								1					
28	きゃーっ	1	1						1							
29	ぎゅうぎゅう	1	1									1				
30	ぎゅっ	2	2	1							1					
31	きよとん	1	1			1										
32	きらきら	1	1										1			

【表6】 「中級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(2)

	語	延べ語数	教科書数	新日本語	J301	J501	外大中級	テーマ別	文化Ⅰ	文化Ⅱ	アプローチ	集中	中級読解	トピック前期	トピック後期	中級の日本語
33	ぎらぎら	1	1										1			
34	きりぎり	2	1													2
35	ぎりぎり	1	1						1							
36	ぐうぐう	3	3	1					1	1						
37	くしゃくしゃ	1	1							1						
38	くすくす	3	3								1				1	1
39	くたくた	4	3	2						1			1			
40	ぐっすり	2	1								2					
41	ぐったり	1	1							1						
42	くよくよ	1	1						1							
43	くらっ	1	1			1										
44	くるくる	2	2			1							1			
45	ぐるぐる	1	1			1										
46	ぐるり	1	1	1												
47	ぐんと	2	1	2												
48	げらげら	4	4							1	1				1	1
49	ごーん	1	1		1											
50	ごくごく	2	2					1							1	
51	こけこっこー	1	1						1							
52	こちこち	1	1			1										
53	ごちゃごちゃ	3	2	1					1							
54	ごつごつ	1	1							1						
55	こってり	2	1								2					
56	ごろごろ	6	2	3					3							
57	こんがり	1	1	1												
58	こんこん	2	2	1					1							
59	ざあざあ	6	5	1					1	1	1					2
61	さっさと	2	2							1	1					
60	さっと	8	5	2				1		3	1		1			
62	ざっと	2	1										2			
63	さっぱり	6	3						1	3						2
64	さめざめ	1	1			1										

【表6】 「中級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(3)

	語	延べ語数	教科書数	新日本語	J301	J501	外大中級	テーマ別	文化 I	文化 II	アプローチ	集中	中級読解	トピック前期	トピック後期	中級の日本語
65	しーん	1	1		1											
66	しくしく	6	4							1	1				1	3
67	しっかり	12	5	1			1	3			6		1			
68	じっと	8	7	1	1		1	2	1	1			1			
69	しとしと	5	3							1	2		2			
70	じめじめ	2	1								2					
71	しょぼしょぼ	1	1							1						
72	しょんぼり	1	1							1						
73	じろじろ	4	3								1	1				2
74	すーっ	2	2		1	1										
75	すーはー	1	1			1										
76	ずきずき	1	1	1												
77	ずきん	2	1	2												
78	すっかり	18	7	1				3	3		1		3	1	6	
79	すっきり	6	4							1		1	1			1
80	すっと	2	2						1	1						
81	すっぼり	2	2									1	1			
82	ずどん	1	1													1
83	ずばずば	1	1										1			
84	すべすべ	1	1							1						
85	すやすや	1	1				1									
86	すらすら	2	2									1			1	
87	ずらり	1	1										1			
88	せかせか	1	1				1									
89	ぞくぞく	1	1	1												
90	そっくり	11	2								8	3				
91	そっと	1	1					1								
92	ぞっと	1	1		1											
93	そよそよ	1	1								1					
94	そろそろ	12	4	5				1	2			3				
95	そろそろ	2	1						2							
96	たっぷり	1	1	1												

【表6】 「中級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(4)

	語	延べ語数	教科書数	新日本語	J301	J501	外大中級	テーマ別	文化Ⅰ	文化Ⅱ	アプローチ	集中	中級読解	トピック前期	トピック後期	中級の日本語
97	だらだら	1	1						1							
98	ちびちび	1	1												1	
99	ちゃんと	13	4				1				4	4				4
100	ちゅーちゅー	1	1						1							
101	ちゅんちゅん	1	1							1						
102	ちよきちよき	1	1						1							
103	ちらり	1	1										1			
104	つるつる	1	1							1						
105	てきぱき	1	1							1						
106	でこぼこ	1	1						1							
107	どーん	2	1										2			
108	どきっ	1	1								1					
109	どきどき	10	7	1			1	2	1	1				1	3	
110	どきまぎ	1	1				1									
111	どきん	1	1					1								
112	どきんどきん	1	1					1								
113	どさっ	2	2	1												1
114	どしん	1	1													1
115	どっさり	2	1										1			
116	どっしり	1	1							1						
117	どっと	1	1										1			
118	とぼとぼ	2	1										2			
119	とん	1	1			1										
120	どん	1	1													
121	とんとん	1	1	1												
122	どんどん	20	9	2	1			2	5	2	2		1	2		3
123	にこにこ	12	7					2			3	2		1	1	2
124	にっこり	4	3					2					1			1
125	にゃーお	1	1													1
126	にゃーにゃー	1	1						1							
127	にやっ	1	1													1
128	にやにや	4	3				1				2				1	

【表6】 「中級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(5)

	語	延べ語数	教科書数	新日本語	J301	J501	外大中級	テーマ別	文化 I	文化 II	アプローチ	集中	中級読解	トピック前期	トピック後期	中級の日本語
129	のびのび	1	1											1		
130	のらりくらり	2	1													2
131	のんびり	11	6		1				1	1	2		3			3
132	ばー	1	1		1											
133	はーっ	1	1			1										
134	ぱくぱく	1	1							1						
135	ばたばた	1	1	1												
136	ばたり	1	1			1										
137	ばたん	1	1						1							
138	ばちばち	1	1										1			
141	はっきり	36	11	3		4	2	2	6	4	5		4	1	3	2
142	ばったり	1	1													1
139	はっと	2	1										1			
140	ぱっと	1	1										1			
143	はらはら	1	1								1					
144	ばらばら	3	2					2		1						
145	ばらばら	2	2							1	1					
146	ぴー	1	1			1										
147	ぴかぴか	1	1							1						
148	ひそひそ	1	1												1	
149	びっくり	29	7		2	1			2	1	6	6				11
150	びっしょり	1	1							1						
151	びっしり	1	1							1						
152	ひっそり	1	1						1							
153	びったり	2	2							1		1				
154	びびーっ	1	1			1										
155	ひゅーひゅー	1	1						1							
156	びゅーびゅー	1	1								1					
157	ひよつと	1	1										1			
158	びよびよ	1	1						1							
159	びりっ	1	1							1						
160	ひりひり	1	1	1												

【表6】 「中級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(6)

	語	延べ語数	教科書数	新日本語	J301	J501	外大中級	テーマ別	文化 I	文化 II	アプローチ	集中	中級読解	トピック前期	トピック後期	中級の日本語
161	びりびり	1	1							1						
162	ぶーっ	1	1								1					
163	ふうふう	2	2					1							1	
164	ふさふさ	1	1										1			
165	ふっくら	1	1						1							
166	ぶつぶつ	1	1												1	
167	ふと	1	1			1										
168	ふふふ	1	1												1	
169	ふらふら	1	1						1							
170	ぶらぶら	4	2								1		3			
171	ふわっ	2	2	1									1			
172	ふわふわ	1	1										1			
173	ぺこぺこ	3	2	2					1							
174	ぺちやくちゃ	1	1						1							
175	べらべら	1	1												1	
176	ぺらぺら	6	4			1					1				1	3
177	ぼい	1	1			1										
178	ぼーっ	6	2			5							1			
179	ぼかぼか	3	3						1				1	1		
180	ぼそぼそ	2	1													2
181	ぼたぼた	1	1													1
182	ぼたりぼたり	2	1										2			
183	ほっと	12	7	2				4	1	1		1	1		2	
184	ぼつぼつ	2	2						1	1						
185	ぼつん	1	1						1							
186	ぼろぼろ	2	2				1				1					
187	ぼん	1	1					1								
188	ぼんぼん	4	2								2					2
189	ぼんやり	4	2			1				2			1			
190	まごまご	1	1									1				
191	むかむか	1	1	1												
192	むつつり	1	1										1			

【表6】 「中級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(7)

	語	延べ語数	教科書数	新日本語	J301	J501	外大中級	テーマ別	文化 I	文化 II	アプローチ	集中	中級読解	トピック前期	トピック後期	中級の日本語
193	めそめそ	1	1												1	
194	めちやくちや	1	1							1						
195	もー	1	1													1
196	もーもー	1	1						1							
197	ゆっくり	28	9	5	2	1		4	6		3	1	2			4
198	ゆったり	5	5			1	1	1					1	1		
199	ゆらゆら	2	2			1							1			
200	よたよた	1	1										1			
201	わあわあ	1	1												1	
202	わくわく	4	3			1					2		1			
203	ワンワン	2	2						1							1

【表7】 「中級教科書に見られるオノマトペ 出現頻度順」(1)

	順位	語	教科書数	延べ語数
1	1	はっきり	11	36
2	2	ゆっくり	9	25
3	3	どンドン	8	19
4	4	びっくり	7	29
5		すっきり	7	18
6		どきどき	7	10
7		いらいら	7	9
8		じっと	7	8
9	9	にこにこ	6	11
10		のんびり	6	11
11		きちんと	6	9
12		ほっと	6	8
13	13	しっかり	5	12
14		がっかり	5	9
15		さっと	5	8
16		ざあざあ	5	6
17		ゆったり	5	5
18	18	そろそろ	4	13
19		ちゃんと	4	13
20		しくしく	4	6
21		すっきり	4	6
22		ぺらぺら	4	6
23		げらげら	4	4
24	24	うっかり	3	11
25		さっぱり	3	6
26		しとしと	3	5
27		くたくた	3	4
28		じろじろ	3	4
29		にやにや	3	4
30		ぐうぐう	3	3
31		くすくす	3	3
32		にっこり	3	3
33		ぼかぼか	3	3
34	34	そっくり	2	11
35		ごろごろ	2	6
36		ぼーっ	2	6
37		ぶらぶら	2	4
38		ぼんやり	2	4
39		わくわく	2	4
40		あっさり	2	3
41		からから	2	3
42		ごちゃごちゃ	2	3
43		ぺこぺこ	2	3
44		うーん	2	2
45		うんざり	2	2
46		がらり	2	2
47		ぎゅっ	2	2
48		くるくる	2	2
49		ごくごく	2	2
50		こんこん	2	2
51		さっさと	2	2
52		すーっ	2	2

	順位	語	教科書数	延べ語数
53		すっと	2	2
54		すっぽり	2	2
55		すらすら	2	2
56		どさっ	2	2
57		びったり	2	2
58		ぶうぶう	2	2
59		ふわっ	2	2
60		ぽつぽつ	2	2
61		ぼろぼろ	2	2
62		ゆらゆら	2	2
63		ワンワン	2	2
64	64	ぼんぼん	1	4
65		うつらうつら	1	3
66		おずおず	1	2
67		きりきり	1	2
68		ぐっすり	1	2
69		ぐんと	1	2
70		こってり	1	2
71		ざっと	1	2
72		じめじめ	1	2
73		ずきん	1	2
74		ぞろぞろ	1	2
75		どーん	1	2
76		どっさり	1	2
77		とぼとぼ	1	2
78		のらりくらり	1	2
79		はっと	1	2
80		ばらばら	1	2
81		ぼそぼそ	1	2
82		ぼたりぼたり	1	2
83		あははは	1	1
84		いそいそ	1	1
85		うとうと	1	1
86		おいおい	1	1
87		おぎやおぎや	1	1
88		かしゃかしゃ	1	1
89		がちゃんがち	1	1
90		がっちり	1	1
91		がぶがぶ	1	1
92		からっと	1	1
93		かんかん	1	1
94		がんがん	1	1
95		きっちり	1	1
96		きっぱり	1	1
97		きびきび	1	1
98		ぎゃーぎゃー	1	1
99		きやーっ	1	1
100		ぎゅうぎゅう	1	1
101		きよとん	1	1
102		きらきら	1	1
103		ぎらぎら	1	1
104		ぎりぎり	1	1

【表7】 「中級教科書に見られるオノマトペ 出現頻度順」(2)

	順位	語	教科書数	延べ語数
105	64	くしゃくしゃ	1	1
106		ぐったり	1	1
107		くよくよ	1	1
108		くらっ	1	1
109		ぐるぐる	1	1
110		ぐるり	1	1
111		ごーん	1	1
112		こけこっこー	1	1
113		こちこち	1	1
114		ごつごつ	1	1
115		こんがり	1	1
116		さめざめ	1	1
117		しーん	1	1
118		しょぼしょぼ	1	1
119		しょんぼり	1	1
120		すーはー	1	1
121		ずきずき	1	1
122		ずどん	1	1
123		ずばずば	1	1
124		すべすべ	1	1
125		すやすや	1	1
126		ずらり	1	1
127		せかせか	1	1
128		ぞくぞく	1	1
129		そっと	1	1
130		ぞっと	1	1
131		そよそよ	1	1
132		たっぷり	1	1
133		だらだら	1	1
134		ちびちび	1	1
135		ちゅーちゅー	1	1
136		ちゅんちゅん	1	1
137		ちよきちよき	1	1
138		ちらり	1	1
139		つるつる	1	1
140		てきばき	1	1
141		でこぼこ	1	1
142		どきっ	1	1
143		どぎまぎ	1	1
144		どきん	1	1
145		どきんどきん	1	1
146		どしん	1	1
147		どっしり	1	1
148		どっと	1	1
149		とん	1	1
150		どん	1	1
151		とんとん	1	1
152		にゃーお	1	1
153		にゃーにゃー	1	1
154		にゃっ	1	1
155		のびのび	1	1
156		ばー	1	1

	順位	語	教科書数	延べ語数
157	64	はーっ	1	1
158		ばくばく	1	1
159		ばたばた	1	1
160		ばたり	1	1
161		ばたん	1	1
162		ばちばち	1	1
163		ばったり	1	1
164		ばっと	1	1
165		はらはら	1	1
166		ばらばら	1	1
167		びー	1	1
168		ぴかぴか	1	1
169		ひそひそ	1	1
170		びっしょり	1	1
171		びっしり	1	1
172		ひっそり	1	1
173		ぴぴーっ	1	1
174		ひゅーひゅー	1	1
175		びゅーびゅー	1	1
176		ひよっと	1	1
177		ぴよぴよ	1	1
178		ぴりっ	1	1
179		ひりひり	1	1
180		びりびり	1	1
181		ぶーっ	1	1
182		ふさふさ	1	1
183		ふっくら	1	1
184		ぶつぶつ	1	1
185		ふと	1	1
186		ふふふ	1	1
187		ふらふら	1	1
188		ふわふわ	1	1
189		ぺちやくちや	1	1
190		べらべら	1	1
191		ぼい	1	1
192		ぼたぼた	1	1
193		ぼつん	1	1
194		ぼん	1	1
195		まごまご	1	1
196		むかむか	1	1
197		むっつり	1	1
198		めそめそ	1	1
199		めちやくちや	1	1
200		もー	1	1
201		もーもー	1	1
202		よたよた	1	1
203		わあわあ	1	1

3. 2. 4 まとめと考察

まず【表5】で、出現したオノマトペを種類別に見てみる。擬声語は動物の声が中心であるが、全体の5%余りしかなく、擬音語も同様に、全体に占める割合は7.5%で決して多くない。反対に擬態語は、物・擬態語が約22%、また4種のオノマトペの中で最も多く出現している人・擬態語が全体の約65%を占めていて、両方を合わせると約78%となっている。オノマトペというと、まず動物の鳴き声や物音などを表す擬音語を思い浮かべることが多いようだが、実際には、人の動きの様子や感覚、心情などを表す擬態語が最も多く用いられ、その次に物の動きの様子を表す擬態語が続いているということがわかる。

次に、【表6】から教科書別の出現状況を見る。始めに述べた通り、教科書によって見られるオノマトペは、やはり相当に異なることがわかった。13種の教科書の中で、オノマトペの出現数が最も多かったのは『ニューアプローチ』で、特に「人・擬態語」の出現が目立つ。異なり語数では31だが、一つの語が教科書の同じ課や別の課で繰り返し使用されていることで全体数が多くなっていると思われる。これは、新しい語を提示したら、その後も繰り返しその語に触れさせることが、記憶に定着し習得に結びつくということから考えても望ましいことであると思う。また、この教科書の第14課は「笑いの効果」というタイトルのもとに、本文に「にこにこ」と「にやにや」が出てくる関係で、課末の「関連語の学習」に、「擬態語（感情の表現）」として「げらげら笑う」「しくしく泣く」、「かんかんになって怒る」「いらいらする」「はらはらする」等が紹介されている。さらに、第16課では、「梅雨」という本文中に「しとしと」「じめじめ」「からっと」が出てくることから、同じく「関連語の学習」で、「雨・風の擬態語」として「ぱらぱら」「ざーざー」「そよそよ」等が提示されている。このように、本文のテーマや本文中に出てくるオノマトペに関連して、他のオノマトペも提示するという方法は、特に中級以降の段階で語彙を増やすためには有効な方法であろうかと思う。ただ、その場合にも、できれば句レベルではなく、もう少し文脈を伴った文章の中で提示できればさらに望ましいと思われる。

出現数が2番目に多かったのは『中級の日本語』で、『ニューアプローチ』と同様、「人・擬態語」が非常に多く使われている。特に「びっくり」は、7つの課にまたがって合計11回も出てくるが、これはこの教科書が、アメリカに住み日本語を学んでいる大学生が、日本に留学して日本の生活を体験するという設定になっていることとも関係するのであろう。また、擬声語や擬音語も積極的に提示していることがわかるが、この教科書においても、それらの語を文脈の中で提示するのではなく、やはり語彙の紹介という形で句レベル（例：

くすくす笑う)で提示し、英語訳をつけるにとどまっている。

出現数の多さでみると、次は『中級読解』『文化中級Ⅰ』、それから『文化中級Ⅱ』であるが、『文化中級』は中級レベルとして2分冊を用意しており、ⅠとⅡを合わせると125語ということになる。もちろん2冊合わせると本文のページ数も相当多いので、オノマトペに限らず他の語彙も出現数が多くなって当然である。だが、これは他の中級教科書で2分冊にしている『J301・501』の合計55語、『トピック中級前期・後期』の43語と比べても、2倍から3倍の量であり、オノマトペを積極的に導入していることがうかがえる。『文化中級Ⅰ』では第3課で擬声語が7語、擬音語が11語出てくるが、動物の鳴き声や事物の音を、「どの動物がどう鳴くでしょう」「何の音でしょう」というように、クイズ形式で興味を持たせながら導入しているのが特徴的である。

『文化中級Ⅱ』では、第6課「言葉と文化」のところで、「擬音語・擬態語」として、擬音語が5語、物・擬態語が7語、人・擬態語が17語まとめて提示されている。ここでも、数人が花見をしているイラストを見て、あてはまるオノマトペを選び、さらにそれに続く動詞も書かせるという問題形式をとっている。また、少しまとまった文章の中でオノマトペがいくつか使われている例を示し、その下に、①「～する／～している」の形で使われるもの、②「～だ／～に」の形で使われるもの、として「すっきり」「しょんぼり」「めちやくちゃ」「くたくた」等のオノマトペが紹介されている。オノマトペの統語的情報に着目させる点は評価できるが、やはりこれらのオノマトペがいつ、どのような状況のもとに使われるのか、という文脈の提示も必要なのではないかと考える。

『文化中級Ⅰ』と同数のオノマトペが見られた『中級読解』では、「人・擬態語」の出現が特に多いが、擬声語はゼロで、擬音語は3種のみである。この教科書は、いわゆる読解教材であるが、中級レベルの成人学習者を対象とし、様々なテーマのもとに筆者が平易な日本語で書き下ろしたものである。そのため、本来書き言葉である文章の中に、話し言葉のように自然にオノマトペが多く用いられたのではないかとと思われる。

次にオノマトペが多く見られたのは『新日本語の中級』である。この教科書も、オノマトペのうち擬態語を指導項目として、3課にわたって取り上げている。第7課で「ぺこぺこ」「ずきずき」など身体の状態や病気の症状に関する擬態語が9語、第10課で「さっと」「こんがり」など料理をするときの素材の状態や動作を表す擬態語が6語、第16課でさらに「くたくた」「いらいら」等人の心情などを表す擬態語が7語導入されている。まとめて導入されるこれらの22語を引いてもオノマトペが外にも36語は出てくるということは、

この教科書が実践的会話能力を身につけ、豊かなコミュニケーションができることを目指していることの現われかと思われる。すなわち、読解中心の教科書に比べて、コミュニケーション能力の育成に焦点をあてた会話中心の教科書のほうが、より多くのオノマトペが出てくるのではないかということである。

『テーマ別中級』『J501』は、総出現数もほぼ同数であるが、出現するオノマトペの種類にも同じような傾向が見られる。それは、一つのオノマトペが繰り返し出てくることである。『テーマ別中級』では「ほっと」「ゆっくり」がそれぞれ4回ずつ、「すっかり」「しっかき」「いらいら」が3回ずつ、また『J501』では「ぼーっと」が5回、「はっきり」が4回出てくる。これらはどれも日常会話の中で多用されるオノマトペであると思われるが、オノマトペの異なり語数という点では、中級としては決して多いとは言えないと思う。『テーマ別中級』は、やはり読解中心の教科書でしかも書き下ろし文を本文としているため、会話表現でよく用いられるようなオノマトペが出てこないのも当然の結果であると言えよう。

さて、オノマトペの出現数が15語と少なかった『J301』は、本文がすべて新聞や雑誌、一般書などの生教材になっているのだが、教科書全体の中で本文の占める割合が低いため、結果的に提出される語彙数も少なくなっているのだろうと思う。第6課「お化けと幽霊」の中に「バーとやる」「鐘がゴーンと鳴る」「スーッと現れる」「トン、トンとたたく」「シーンとしている」「ぞっとする」など、お化けにちなむ語がまとめて出てくるのだが、それらのオノマトペは意図的に出されたのではなく、たまたま採用した本文に含まれていたのだと思われる。

『外大中級日本語』は、提出語彙数が2,400語とかなり多いにもかかわらずオノマトペはわずか14語であった。これは2,400語が『日本語教育のための基本語語彙調査』⁷の上位6,000語から主にとられているということがその理由ではないかと思われる。というのは、この上位6,000語に採用されているオノマトペがそもそも61語でかなり限られており、実際他の教科書に見られたオノマトペを見ても、この61語には含まれていないものが相当ある。つまり、基本語彙上位6,000語と限定したことによって、そのリストに入っていない語は必然的に除かれてしまったのではないかと思われる。

今回調査した中級教科書の中で、オノマトペの出現数が最も少なかったのは『トピック中級』であり、全体で9語（異なり語数では8語）しか見られなかった。これは、この教

⁷ この資料については、第5章1節で改めて報告する。

科書が、3. 2. 2項でも述べた通り、「自分でテーマを探して調査、考察、発表する」ことを目標とし、そのための「情報」としてグラフなどのデータも提供しているため、いわゆる本文としての「読み物」の量が相対的に少ないことによるのだと思う。また、5つのトピックのうち4つのトピックのために提示されている「読み物」は、新聞記事や雑誌記事などの生教材であるため、オノマトペもたまたまそこに入っていたものに限られるということもあると思われる。

最後に【表7】から、中級教科書によく見られるオノマトペにはどんなものがあるのか、見てみる。まず、出現頻度が一番高かったのは「はっきり」で、11種すべての教科書に延べ36回見られた。「はっきり」は、各種言語資料における出現頻度順で見ると、新聞記事でも第1位、雑誌記事では第2位とどちらも高頻度である。「はっきり」が、中級教科書において実際どのように用いられているか、以下に巻末資料から抜粋する。(教科書名は略称。下線は筆者による。)

- 1) 叔父：それで、今度はどんな仕事に就こうと考えているんだい。敏子：まだはっきり決めていないんですけど…。(文化中級I)
- 2) 最近では、コンピューターのおかげで、水の分子についてかなりはっきりしたイメージがつかめるようになってきました。(日本語中級J501)
- 3) はっきり理由を言って、自分の考えが伝えられる。(新日本語の中級)
- 4) また、その外に日本人の言い方がはっきりしなくて、よく分からないと思ったことがありますか。(新日本語の中級)
- 5) 六月、七月はくもりがちで、はっきりしない元気が続く。(テーマ別中級)
- 6) それまでわからなかったことが突然はっきりとわかる。(トピック中級後期)
- 7) 知りたいことをはっきりさせて質問をつくる。(トピック中級前期)

「はっきり」は、いくつかの初級教科書でもすでに導入されている基本的な副詞であるが、初級の段階では、「はっきり話す」「はっきり聞こえる」などの用法が中心であると思われる。しかし、中級段階になると、副詞用法として共起する動詞も増え(はっきり決める・はっきり言う・はっきりわかる)、また「する」を伴った動詞としての用法(はっきりする・はっきりさせる)、名詞を修飾する形容動詞的な用法(はっきりしたイメージ・はっきりしない天気)など、文中における用法も様々に広がってくるのがわかる。オノマト

ぺの中には、このように文中で様々な品詞として用いられるものがあることは、1. 4節で見た通りであるが、このようなことも、中級段階における語彙の学習において留意する必要がある点だと考える。

中級教科書において、出現が2番目に多かったのは「ゆっくり」である。「ゆっくり」は、新聞記事で第5位、雑誌記事と漫画では第7位、そしてシナリオ全体では第1位となっていて、やはり高頻度であると言える。また、出現頻度順第3位の「どンドン」以下、「すっかり」「きちんと」「しっかり」「そろそろ」「ちゃんと」なども、「はっきり」「ゆっくり」と同様、初級の教科書でもすでに一般の副詞という認識のもとに提示されているような語である。一方、頻度順24位（上位33語）までに見られる、「びっくり」「どきどき」「いらいら」「じっと」「にこにこ」「のんびり」「ほっと」「がっかり」「しくしく」「ぺらぺら」「げらげら」「うっかり」「くたくた」「じろじろ」「にやにや」「ぐうぐう」「くすくす」「にっこり」は、すべて人の様子や感覚・感情を表す「人・擬態語」である。これらのうち、各種言語資料の頻度順50位程度までには見られなかったもの、すなわち中級教科書に特有のオノマトペであると思われるのは、「しくしく」「ぺらぺら」「くたくた」「じろじろ」「にやにや」「ぐうぐう」である。これらのオノマトペは、繰り返しという典型的なオノマトペの形態をもち、一般の副詞という認識はされにくい<オノマトペ度の高い>語である。

以上、中級教科書に見られるオノマトペを、教科書別に、また語種別に見てきたが、3. 2の冒頭でも書いた通り、中級教科書の本文は、オーセンティックな生教材から生教材を一部手直ししたもの、生教材を題材として中級向けに書き直したもの、そしてまったくの書き下ろし文、と様々な言語素材が混在している。今回は、それらを区別することなく、学習者が中級教科書で出会うオノマトペにはどのようなものが見られるかという観点から調査したが、今後は、中級教科書の本文の題材の違いによって、オノマトペの出現がどのように異なるか、また生教材を手直しした場合、原典にあったオノマトペは省略された可能性はあるのか、などの観点からも調査してみたいと考える。

3. 3 初級教科書のオノマトペ

ここでは、日本語初級教科書にどのようなオノマトペが見られるかについて調査・報告する。初級教科書は、そこで導入される語彙にしても文型にしても、日本語の素材として学習者が最初に出会うものである。そして、ほとんどの場合、初級学習者が使用する教科書は1冊であるから、その教科書を通して出会う語彙もごく基本的なものに限られることになる。そこで、その限られた語彙の中にオノマトペが入る余地はないように思われるが、実際はどうであろうか。

ここではまず3. 3. 1項で、調査の対象とする各初級教科書の概要と、導入される語彙数等についてまとめる。続く3. 3. 2項では、各教科書に出現したオノマトペの種類と数、さらにどの教科書にどのようなオノマトペがいくつ出現したかを一覧表にして示す。さらに、中級教科書の場合と同様に、各オノマトペを出現頻度順に並べ、どんなオノマトペが初級教科書に最も多く見られるかについても調査し、3. 3. 3項でまとめと考察を行う。

3. 3. 1 調査の対象とする初級教科書

調査の対象とするのは、一般成人向け、就学生・留学生向け、技術研修生向け、年少者向け、定住生活者向け等、以下にあげる計14種の初級教科書である。各教科書の概要と特徴を以下に記す。

(1) 『みんなの日本語初級Ⅰ, Ⅱ』スリーエーネットワーク編(1998)スリーエーネットワーク

初めて日本語を学ぶ人がだれでも楽しく学べるよう、また教える人にとっても興味深く教えられるよう企画・編集された、『新日本語の基礎』の姉妹編とでもいべき教科書。職場、家庭、学校、地域などで日本語によるコミュニケーションを今すぐ必要としている外国人のうち、主に一社会人を対象としているが、大学進学の前備課程、専門学校・大学の短期集中用教科書としてもよい。『みんなの日本語初級Ⅰ』『みんなの日本語初級Ⅱ』とも25課ずつで全50課構成。『みんなの日本語初級Ⅰ』の必修語彙数は1,060語で、各課の「新出語彙」のほかに、「参考語彙」として25項目、約390語を選定している。『みんなの

日本語初級Ⅱ』の新出語彙数は約 900 語である。

(2) 『初級日本語』東京外国語大学留学生日本語教育センター編 (1992) 凡人社

日本の大学で専門的な研究をする目的で、はじめて日本語を学ぶ人のためのテキストである。全 28 課と「読み物」10 編からなり、語彙は「本文会話」と「文型・語い」において 2,000 語提出されている。そのうち助詞、助動詞、接辞などを除いた自立語は 1,800 語余 (固有名詞 50 余を含む) である。

(3) 『Total Japanese 会話の本 1, 2』岡野喜美子・長谷川ユリ・大塚純子・塩崎紀子・アン・松本・スチュワート (1994) 早稲田大学国際部 凡人社

主に英語圏の大学生を対象として書かれ、初級から初中級の学習者が四技能をバランスよく学べるように作られた総合型日本語教科書。『会話の本 1, 2』と『読み書きの本』、『文法・会話解説の本』の三部構成になっている。『会話の本 1, 2』は、自然な会話表現を重視し、口頭のコミュニケーション能力の養成をめざしている。新出語彙数は、『会話の本 1』『会話の本 2』合わせて約 2,200 語である。

(4) 『初級日本語げんき I, II』坂野永理・大野裕・坂根庸子・渡嘉敷恭子 (1999) The Japan Times

初めて日本語を学ぶ人が対象。大学生はもとより、高校生や社会人、日本語独習者が効果的に日本語の 4 技能を伸ばし、総合的な日本語能力を高めるように考えられている。文法説明等は英語で書かれているので、ある程度英語がわかることが前提。第 1 巻が 12 課、第 2 巻が 11 課の全 23 課。新出語彙は、日常生活に必要な基本語彙、約 1,100 語である。

(5) 『日本語初歩』鈴木忍・川瀬生郎著 (1985) 国際交流基金日本語国際センター編 凡人社

海外において日本語を初歩から学ぼうとする日本語学習者のために編集されたものだが、国内においても十分利用できるよう配慮されている。四技能の基礎を段階的に習得させ、その定着を図ることを主眼としている。語彙は最も基本的と思われる 1,400 語である。

(6) 『新文化初級日本語Ⅰ，Ⅱ』文化外国語専門学校編（2000）文化外国語専門学校

将来日本語の大学や専門学校に進学することを希望し、初めて日本語を学ぶ学習者のための日本語教科書で、媒介語を使わない授業で使用することを前提としている。初級の日本語学習の条件として、文法を体系的に習得し、将来高等教育を受けるに足る高い応用力を積み上げられるような土台を作ること、さらに日本の生活で日々直面する場面でコミュニケーションができるようにすることの二つをあげている。総語彙数は約1,900となっている。

(7) 『ひろこさんのたのしいにほんご1，2』根本牧・屋代瑛子（1986）凡人社

インドシナ難民のための定住促進センターで学ぶ子供たちのために開発された教材。9歳の日本人の女の子「ひろこさん」を主人公に、ひろこさんの生活や家族・友人との係わり合いを通じて、日本の生活や習慣を自然に学べるように配慮されている。提出語彙数は493語。『ひろこさんのたのしいにほんご2』は『ひろこさんのたのしいにほんご』（1995年に『ひろこさんのたのしいにほんご1』と変更）の続編で、より複雑で高度な文型を扱い、豊かで自由な日本語を表現する力がつくことをめざしている。提出語彙数は575語。

(8) 『こどものにほんご1，2』飯田三津子・池上智恵子・貫上育代・三村恵美子・宮崎豊子・吉崎節子（2002）スリーエーネットワーク

近年増加しつつある日本の小学校に在籍する外国人児童とその日本語教育に携わっている教師のために作成された児童向け教科書。名詞文、形容詞文、動詞文丁寧体の現在と過去、名詞文、形容詞文、動詞文普通体の現在までの文型と、小学校一年生の漢字がシラバスとなっている。全13かた「さくぶん」から成る。

(9) 『中国からの帰国者のための生活日本語Ⅰ，Ⅱ』文化庁文化部国語課編（1983）文化庁文化部国語課

中国からの帰国者が日常生活で最も頻繁にかかわりのある24の場面を選定し、その場面ごとに、生活していくために必要な日本語の要素を抽出。必要な生活情報も盛り込んだ教材である。『生活日本語Ⅱ』は、『生活日本語Ⅰ』を修了した人が引き続き学習するのにふさわしい教材として作成される。『生活日本語Ⅰ』において十分に収録できなかった家庭生活の場面を中心に、頻繁に使われる日常会話の練習を多く取り入れ、やや複雑な表現

を必要とする会話能力が身につけられるよう配慮してある。

- (10) 『あたらしい じっせん日本語 技術研修編』 国際研修協力機構監修 国際日本語普及協会著 (2002) 国際日本語普及協会

研修と訓練を通じて技術を習得し、それを生かして一定期間現場で働く外国人のために書かれた教科書。60 時間前後という短い学習時間を想定し、すぐに研修現場で使える日本語を教えることに主眼を置いている。本文の新出語彙数は約 830 語。本文の巻末には写真・イラスト付きの「絵入り分類語彙表」がカテゴリー別に掲載されている。

- (11) 『ひらけ日本語』 拓殖大学 (2002) 凡人社

日本の大学、大学院等への進学を目指し、日本語教育機関に在籍する留学生を対象とし、アカデミックな場面でも通用する日本語（アカデミック・ジャパニーズ）の基礎を学び、その後中級、上級レベルへと進みながら、大学での学習活動ができる程度の日本語能力を習得していくことが期待されている。語彙は、留学生の日常生活や、予備教育が行われている日本語教育機関で日常よく使われる語彙が中心で、「日本語能力試験出題基準」の 4、3 級範囲から選択するよう心がけているが、この種の機関の学習者にとって有用な語彙（例：証明書、ビデオなど）は、その範囲を超えたものでも敢えて提出している。語彙の総数は、約 1,800 語である。

- (12) 『新装版 日本語初級 I・II』 東海大学留学生教育センター編 (2002) 東海大学出版会

日本の大学・大学院への進学を志す外国人留学生を対象に、初級段階でのクラスで用いられる教科書として編まれたもの。大学での学生生活における日常的な場面や言語行動を材料にしたものが多いが、留学生はもとより、広く一般成人の日本語学習者にも使用され得る。『初級 I・II』をあわせて全 46 課からなり、語彙の数は、助詞・助動詞を除き、『初級 I』で約 1,500 語、『初級 II』で約 1,000 語となっている。

- (13) 『Japanese for Everyone』 名柄迪・中西家栄子・井口厚夫・茅野直子・下村彰子・横林宙世・山浦洋一・林伸一・林伸子・斉藤明編著 (1990) 学習研究社

日本語を初めて学習する非漢字系、特に英語を母語とする者、またはそれに準じる者を

対象に、日本語の基礎を教えることを目的としている。内容は、話し言葉を中心に、実際の場面、文脈に合った自然な会話遂行能力の育成、基礎的な文型・言語形式の習得を第一の目的にしていて、学習者が自分の意見や考えを明確に述べ、日常生活において適切なコミュニケーションが達成できるよう目標が設定されている。また、総合的な言語運用能力を付けるために、聴解および読解技術の習得についても各課ごとにタスクを中心とした練習問題が加えられている。語彙および表現の総数は約 2,500 語である。

(14)『実力日本語 上・下 ―豊かな語彙・表現力をめざして―』東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 (2000) アルク

「大学または大学院で高度の教育を受け、研究を進めていこうとする学習者が、できるだけ短期間に多くの知的内容に支えられた日本語を学習できるよう編集された」教科書。そのため、レベルとしては日本語能力試験 3 級までの初級の範囲になっているものの、他の教科書に比べ、語彙数も相当数が盛り込まれており、約 3,500 語が提示されている。

3. 3. 2 初級教科書に見られるオノマトペ

調査した 14 種の初級教科書に出現したオノマトペを、擬声語、擬音語、物・擬態語、人・擬態語の 4 つに分類し、その数を集計したものが【表 8】である。表中の教科書名は略称を用い、2 分冊のものも 1 種の教科書として集計している。合計の数字は、述べ総出現数、() 内の数字は、2 回以上出現した場合の異なり語数である。⁸

それぞれのオノマトペが、各教科書の何課のどのような例文において見られたかということは、巻末資料に掲載している。

⁸ 各教科書における異なり語数の合計は、全部の教科書の異なり語数の合計と一致しない。これはある教科書において異なり語として数えたものが、他の教科書にも出ているため、全体としての異なり語数にはならないからである。また、擬音語、擬声語などのオノマトペの種類による小計と合計も一致しない。これは、一つの語が擬音語として用いられたり、擬態語として用いられたりするからであるが、全体数はその意味・用法に関係なく、語形として異なるものとして数えているためである。

【表8】 「初級教科書に見られるオノマトペ」

教科書名 (略称)	擬声語	擬音語	物・擬態語	人・擬態語	合計
(1) みんなの日本語	0	0	2	6 (6)	8 (8)
(2) 初級日本語	1	0	2 (2)	2 (2)	5 (5)
(3) Total Japanese	0	0	0	10 (9)	10 (9)
(4) げんき	0	0	1	8 (6)	9 (7)
(5) 日本語初歩	5 (5)	0	0	3 (3)	8 (8)
(6) 新文化初級日本語	1	1	0	11 (5)	13 (7)
(7) ひろこさん	1	6 (6)	4 (3)	2 (2)	13 (12)
(8) こどものほんご	8 (8)	10 (9)	1	12 (9)	31 (27)
(9) 生活日本語	0	0	6 (4)	5 (5)	11 (9)
(10) じっせん日本語	0	0	0	3 (3)	3 (3)
(11) ひらけ日本語	2 (2)	1	1	16 (12)	20 (16)
(12) 東海大初級	0	0	2 (2)	10 (9)	12 (11)
(13) Everyone	0	0	1	32 (17)	33 (18)
(14) 実力日本語	7 (7)	8 (8)	10 (8)	31 (22)	56 (45)
合計	25 (16)	26 (20)	30 (17)	151 (46)	232 (99)
出現総数に対する割合 (%)	10.8%	11.2%	12.9%	65.1%	100%

【表 9】 「初級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(1)

	語	延べ語数	教科書数	みんな	外大初級	Total	げんき	日本語初歩	新文化	ひろこさん	こども	生活	じっせん	ひらけ	東海大	Everyone	実力
1	いらいら	2	2											1	1		
2	ウーウーウー	2	1								2						
3	うっかり	3	3					1				1					1
4	うろうろ	1	1														1
5	おぎゃー	1	1														1
6	カーカー	1	1								1						
7	かちかち	1	1														1
8	がっかり	10	7	1		1	1				1			1	1	4	
9	カラカラ	1	1											1			
10	がんがん	2	2													1	1
11	きちんと	3	3	1							1						1
12	キャー	1	1						1								
13	キラキラ	2	1							2							
14	きりきり	2	2													1	1
15	ゲーゲー	2	2							1	1						
16	くたくた	1	1													1	
17	くよくよ	1	1													1	
18	くらくら	1	1											1			
19	ぐらっと	1	1														1
20	ゲラゲラ	1	1								1						
21	ごほんごほん	1	1								1						
22	ごろごろ	1	1									1					
23	ごわごわ	2	1									2					
24	ざあざあ	2	2								1						1
25	さっと	1	1									1					
26	さっぱり	1	1													1	
27	シクシク	3	3								1					1	1
28	しっかり	10	7						1		1	1		2	1	2	2
29	ジャージャー	1	1								1						
30	ずきずき	4	2													2	2
31	ずたずた	1	1														1
32	すっきり	8	6		1	1								1	2	1	2

【表 9】 「初級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(2)

	語	延べ語数	教科書数	みんな	外大初級	Total	げんき	日本語初歩	新文化	ひろこさん	こども	生活	じっせん	ひらけ	東海大	Everyone	実力
33	すっきり	3	1									3					
34	そうっと	1	1									1					
35	そっくり	2	1														2
36	そっと	1	1														1
37	そろそろ	13	8	1	1	1			3				1	1		2	3
38	ちゃんと	7	6	1		1						1	1			1	2
39	チューチュー	1	1					1									
40	チュンチュン	1	1								1						
41	ドーン	1	1							1							
42	どきどき	1	1													1	
43	ドドーン	1	1							1							
44	どんどん	4	3		1									1			2
45	ドンドンドン	1	1								1						
46	にこにこ	5	5				1				1			1		1	1
47	にやー	1	1														1
48	ニャーニャー	2	2					1			1						
49	ニヤニヤ	1	1				1										
50	ノソノソ	1	1							1							
51	のんびり	3	3			1	1										1
52	パクパク	1	1								1						
53	ばたーん	2	1							2							
54	バタバタ	1	1							1							
55	バタン	2	2							1							1
56	パチッ	1	1						1								
57	パチパチパチ	1	1								1						
58	はっきり	9	7	1		1			1					1	1	1	3
59	ぱっちり	1	1														1
60	ぱっと	1	1														1
61	ははは	1	1														1
62	はらはら	1	1							1							
63	ピー	1	1														1
64	ピーピー	1	1														1

【表 9】 「初級教科書のオノマトペ 教科書対応一覧表」(3)

	語	延べ語数	教科書数	みんな	外大初級	Total	げんき	日本語初歩	新文化	ひろこさん	こども	生活	じっせん	ひらけ	東海大	Everyone	実力
65	ピーポー	2	2								1						1
66	ぴかっ	1	1												1		
67	ぴっくり	19	10	1		1	2	1	2		1			4	2	3	2
68	ぴったり	2	2	1							1						
69	ピピピピ	1	1								1						
70	ひひん	1	1														1
71	ぴゅーぴゅー	1	1														1
72	ぴよこぴよこ	1	1								1						
73	ピョンピョン	1	1							1							
74	ひりひり	1	1														1
75	プープー	1	1					1									
76	ふらふら	2	1											2			
77	ぶらぶら	1	1			1											
78	ふるふる	1	1												1		
79	ふわふわ	1	1														1
80	ぺこぺこ	1	1													1	
81	べらべら	1	1				1										
82	ぼーっ	1	1												1		
83	ポツポツ	1	1								1						
84	めちやくちや	1	1				1										
85	モー	2	2					1									1
86	ゆっくり	32	14	2	1	2	1	1	4	1	3	1	1	1	1	7	6
87	りーんりーん	1	1														1
88	ルルルル	1	1								1						
89	わあわあ	2	2								1			1			
90	わくわく	1	1								1						
91	ワン	2	2		1												1
92	ワンワン	3	3					1			1			1			

【表 10】 「初級教科書のオノマトペ 出現頻度順」

	順位	語	教科書数	延べ語数
1	1	ゆっくり	14	32
2	2	びっくり	10	19
3	3	そろそろ	8	13
4	4	がっかり	7	10
5		しっかり	7	10
6		はっきり	7	9
7	7	すっきり	6	8
8		ちゃんと	6	7
9	9	にこにこ	5	5
10	10	どンドン	3	4
11		うっかり	3	3
12		きちんと	3	3
13		シクシク	3	3
14		のんびり	3	3
15		ワンワン	3	3
16	16	ずきずき	2	4
17		いらいら	2	2
18		がんがん	2	2
19		きりきり	2	2
20		ゲーゲー	2	2
21		ぎあぎあ	2	2
22		ニャーニャー	2	2
23		バタン	2	2
24		ピーポー	2	2
25		ぴったり	2	2
26		モー	2	2
27		わあわあ	2	2
28		ワン	2	2
29	29	すっきり	1	3
30		ウーウーウー	1	2
31		キラキラ	1	2
32		ごわごわ	1	2
33		そっくり	1	2
34		ばたーん	1	2
35		ふらふら	1	2
36		うろうろ	1	1
37		おぎゃー	1	1
38		カーカー	1	1
39		かちかち	1	1
40		カラカラ	1	1
41		キャー	1	1
42		くたくた	1	1
43		くよくよ	1	1
44		くらくら	1	1
45		ぐらっと	1	1
46		ゲラゲラ	1	1
47		ごほんごほん	1	1
48		ごろごろ	1	1
49		ざっと	1	1
50		さっぱり	1	1

	順位	語	教科書数	延べ語数
51	29	ジャージャー	1	1
52		ずたずた	1	1
53		そうっと	1	1
54		そっと	1	1
55		チューチュー	1	1
56		チュンチュン	1	1
57		ドーン	1	1
58		どきどき	1	1
59		ドドーン	1	1
60		ドンドンドン	1	1
61		にゃー	1	1
62		ニヤニヤ	1	1
63		ノソノソ	1	1
64		パクパク	1	1
65		バタバタ	1	1
66		パチッ	1	1
67		パチパチパチ	1	1
68		ぱっちり	1	1
69		ぱっと	1	1
70		ははは	1	1
71		はらはら	1	1
72		びー	1	1
73		びーびー	1	1
74		ぴかっ	1	1
75		ピピピピ	1	1
76		ひひん	1	1
77		ぴゅーぴゅー	1	1
78		ぴよこぴよこ	1	1
79		ピョンピョン	1	1
80		ひりひり	1	1
81		ブーブー	1	1
82		ぶらぶら	1	1
83		ぶるぶる	1	1
84		ふわふわ	1	1
85		ぺこぺこ	1	1
86		ぺらぺら	1	1
87		ぼーっ	1	1
88		ポツポツ	1	1
89		めちやくちゃ	1	1
90		りーんりーん	1	1
91		ルルルル	1	1
92		わくわく	1	1

3. 3. 3 まとめと考察⁹

まず教科書別の総出現述べ語数で見ると、最も多かったのが、『実力日本語』の56語である。2番目に多かった『Everyone』の32語と比べても、その数は群を抜いている。これは、この教科書の副題に「豊かな語彙・表現力をめざして」とあるように、初級における新出語彙数としては破格の約3,500語が提示されていることによるものであろう。また、オノマトペの種類としても4種類が万遍なく提示されていることがわかる。一方、出現数が2番目に多かった『Everyone』では、オノマトペの種類としては「人・擬態語」のみで32語が提示されているのが『実力日本語』と対照的である。また、提示されている語も、【表8】を見てわかる通り、全体での出現頻度数の多い「ゆっくり」「びっくり」「そろそろ」「がっかり」「しっかり」等、日常的に多用されるものが繰り返し出てきていることがわかる。そこから反対に、擬声語、擬音語等はあえて提示しないという姿勢もうかがえる。

同様の傾向は、出現数第4位の『ひらけ日本語』にも見られる。さらに、『Total Japanese』では、出現したオノマトペ10語のすべてが「人・擬態語」であった。そして出現した語も「ゆっくり」「そろそろ」「すっかり」「ちゃんと」「びっくり」「がっかり」など、人の行動の様子や心情など日常的によく用いられているものばかりで、この教科書の会話文が日常の自然な談話をもとに作られていることがうかがえる。

さて、3番目に多かったのが『こどものにほんご』の31語であるが、そのうちの18語が擬声語と擬音語である。『ひろこさん』も同様に、13語中7語が擬声語・擬音語である。これは、『ひろこさん』の本文が童話のような読み物になっている部分もあり、そこに出てくるオノマトペも動物の動きの様子、また花火の音など、子供が見聞きする事象の中から興味をひくようなものを取り上げているのだと思われる。また、『こどものにほんご』には雨や水の音、目覚まし時計の音、パトカーと救急車の音、動物の鳴き声など、やはり身近に聞く音をいくつか集めて出しているようである。これらの語を採用した教科書の作成意図の背景には、日常的によく使われるオノマトペを導入するのではなく、これらの語群に興味を持たせることが主眼としてあったのではないかと思われる。さらに、出現数は少ないが、『日本語初歩』も同様に、動物の鳴き声ばかり5語を導入している。これは、「～(と)いって) なきます」という引用文の導入に例文として利用しているのである。しかし、これらのオノマトペが年少者や成人の外国人にとって日本で生活をしていく上でまず必要な語群かと考えると、それはやや疑問である。最近、ますます年少者向けの日本語教育の重

⁹ 以下のまとめと考察では、便宜上教科書名はすべて略称を用いる。

要性と教材や教育環境の整備の必要性が叫ばれるようになったが、年少者にとって必要なオノマトペは何か、それは大学生や一般社会人にとって必要な語とどう異なるのか、ということなども今後考える必要があるように思う。¹⁰

では、一般成人学習者向けの初級日本語教科書として最も広く使われているとされる『みんなの日本語』はどうであろうか。『みんなの日本語』に出現したオノマトペの総数は9語で、今回調査した教科書の中では少ないほうである。ただ、提示されている語としては、『Everyone』や『ひらけ日本語』と同様に、「人・擬態語」がほとんどである。また、この教科書では、第39課で「びっくり」と「がっかり」が出てくるのだが、これに関連させて、副教材である『翻訳・文法解説』の39課に「気持ち」という項目で、「うれしい」「楽しい」などの語とともに、「びっくりする」「がっかりする」「うっとりする」「いらいらする」「ドキドキする」「はらはらする」「わくわくする」が紹介されている。さらにこの副教材には、各課に「Reference Words & Information」という項目があり、テーマや場面に関連する語彙やことわざなどが紹介されているが、47課のテーマが「擬音語・擬態語」で、以下の15語が共起する語、イラストおよび英語の訳語と共に紹介されている。

ザーザー（降る）　ピューピュー（吹く）　ゴロゴロ（鳴る）　ワンワン（ほえる）
ニャーニャー（鳴く）　カーカー（鳴く）　げらげら（笑う）　しくしく（泣く）
きょろきょろ（見る）　ぱくぱく（食べる）　ぐうぐう（寝る）　すらすら（読む）
ざらざら（している）　べたべた（している）　つつつつ（している）

ただ、これらの語はあくまで参考として載っているだけで、本文にもなく、例文が示されているわけでもないので、積極的に指導するという観点とは少し異なるように思う。

さて、出現数が最も少なかったのは『じっせん日本語』の3語だが、これはこの教科書の総頁数と新出語彙数が他の初級教科書の半分ぐらいということから考えると、ある意味当然の結果かもしれない。また、『生活日本語Ⅰ』にはオノマトペの出現がゼロであった。そして、『生活日本語Ⅱ』で、「ごわごわ」「すっきり」がそれぞれ複数回出てくるが、例文として「ごわごわしたシート」「デザインがすっきりしている」のように、場面・文脈の上でも少し偏りがあるように思われる。これは「中国からの帰国者が生活していくために必要な日本語の要素を抽出した」ということとはリンクさせて考えにくい結果ではある。

次に、初級教科書全体を通して、出現したオノマトペの種類と数という面から考察して

¹⁰ 年少者向けにどのような語彙が必要なのかということは、工藤(1999)の報告に詳しい。

みることにする。まず擬声語であるが、教科書別の考察でも述べたように、擬声語をオノマトペの導入または紹介として取り上げることが、初級教科書における語彙シラバスに対する一つの考え方となっていることが、『日本語初歩』『こどものほんご』『実力日本語』に動物の鳴き声がいくつかまとまって提示されていることからわかる。あと、『初級日本語』『ひらけ日本語』にもそれぞれ1例ずつ、「犬は「ワン」と鳴きます」「犬はわんわんとなきます」が取り上げられている。しかし、先にも述べたように、動物の鳴き声を表すオノマトペが我々の日常生活に必須で、ぜひ学習すべきものかという点、それは少し違うのではないかと思う。また、擬声語のうち、人間の声としては、『こどものほんご』に「ワーワーなく」「ゲラゲラわらう」、『実力日本語』に「ハハハとわらう」「オギャーとなく」、『新文化初級日本語』に「キャー、へび！」が出てくるが、その他の教科書では、擬声語の類はほとんど扱われていない。

次に擬音語であるが、これは年少者向けの2冊の教科書『ひろこさん』『こどものほんご』と『実力日本語』にまとめて出されているほかは、ほとんど扱われていないことがわかる。『新文化初級日本語』で、「スイッチはどこですか。あ、ありました。(パチッ)」という例と、『ひらけ日本語』で、「箱をふると、カラカラと音がしました」の2例のみである。

さて、擬態語は全部で181語出現し、出現総数の8割近くになっている。中でも「人・擬態語」が「物・擬態語」の約5倍の数の出現が見られ、出現総数の65%を占めていることがわかる。【表10】は、各オノマトペを出現頻度順に並べたものであるが、「ゆっくり」はすべての教科書に扱われている。「ゆっくり」は、本論文でオノマトペとして認定した語であるが、オノマトペと認識して導入されているというより、一般的には「いつも」「はやく」「だんだん」等と同様に副詞として扱われていると思われる。「そろそろ」「しっかり」「はっきり」「すっかり」「ちゃんと」「どンドン」等も同様である。¹¹ 「～する」を伴って動詞として用いられるオノマトペのうち、「びっくり」「がっかり」が出現頻度順の上位に来ているが、これらの語が日常のコミュニケーションにおいて多用されることが認識されている結果であると思われる。

また、今回調査対象とはしなかったが、『Now You're Talking – Japanese Conversation for Beginners –』という教科書は、『日本語20時間』という副題の示す通り、ごく入門期の学習者向けの教科書であるが、第5課で、「ごろごろする」というオノマトペが以下のよ

¹¹ これらの語が、教師や学習者にどう認識されているかについては、4.2節で述べる。

うな会話文の中で導入されている。

A : Bさん、あした なにを する？

B : ぼくは、うちで ゴロゴロする。きみは？

A : わたしは レストランで しょくじする。

B : そう、いいね。

この教科書の「はじめに」には、「日本人と早くコミュニケーションがとれるようになりたい」「毎日楽しく勉強したい」という日本語学習者の願いを実現するために、約60名の外国人にインタビューした結果から、最低限、生活に必要な場面を8つ選び、それをもとに会話を作成した、とある。「ごろごろする」は、上に例示した通り、友人同士で明日の予定を聞き合うという場面で用いられているわけだが、1冊の総語彙数がわずかに450語余りという中で敢えて取り上げたことは注目に値する。「ごろごろする」と同様に、「のんびりする」「いらいらする」等のオノマトペも日常多く用いられる語であると思われるので、このような語も、初級の早い段階で取り上げてもいい類なのではないかと考える。

以上、日本語初級教科書14冊に見られるオノマトペの種類、数などを調査・分析した。この結果を、第4章以降でオノマトペ教育を考える上で参考としたい。

